ONKYO®

箱を開けたら、まず

AV アンプ

TX-SA500

取扱説明書

機能と接続

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書と
ともに大切に保管してください。

リモコンを使う

その他

主な特長

■ DTS*デコーダー、ドルビー**デジタルデコーダーおよびMPEG-2 AACデコーダー搭載

■ 5.1チャンネル入力端子装備、DVD-Audioプレーヤーへの拡張性を実現

■ 4系統のS-Video入力端子装備

■ デジタル入力端子として光2系統、同軸1系統

■ デジタル出力端子として光1系統

■ 10のサラウンドモード（ドルビーデジタル、DTS、AAC、ドルビープロロジックⅡムービー／ミュージック、オーケストラ、アンプラグド、スタジオミックス、TVロジック、オールチャンネルステレオ）

■ 再生周波数の広帯域化を図るWRAT（ワイド・レンジ・アンプリファイアー・テクノロジー）

■ 96kHz/24bit D/Aコンバーター搭載

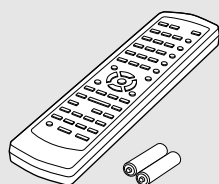
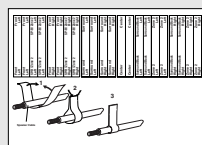
* 本機は、デジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
"DTS"、"DTS Digital Surround"は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

** ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、Dolby、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

AAC パテントマーキング

Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087
5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。

リモコン（RC-479S）… （1）
乾電池（単三型）… （2）

スピーカーケーブル用ラベル… （1）

取扱説明書…（本書 1）
保証書…（1）

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

箱を開けたら、まず

機能と接続

音楽／映画鑑賞をする

リモコンを使う

その他

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
  煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでくだい。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
  本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気をつけてご使用ください。
  - 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
  - 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
  - テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
  - 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

⚠警告

■ 中に物を入れない

● 本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

● 本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー、電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

● 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

- 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

- 電源を入れたときは音量(ボリューム)に注意してください。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■ 電池について

● 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

● 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
● 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて

● スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

● お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

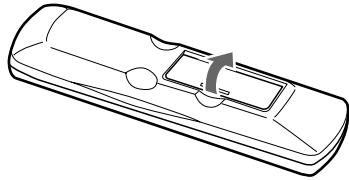
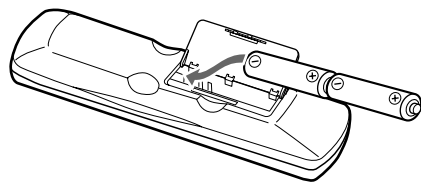
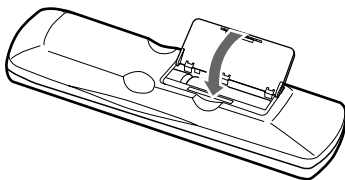
● 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
● 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

● シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

● 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

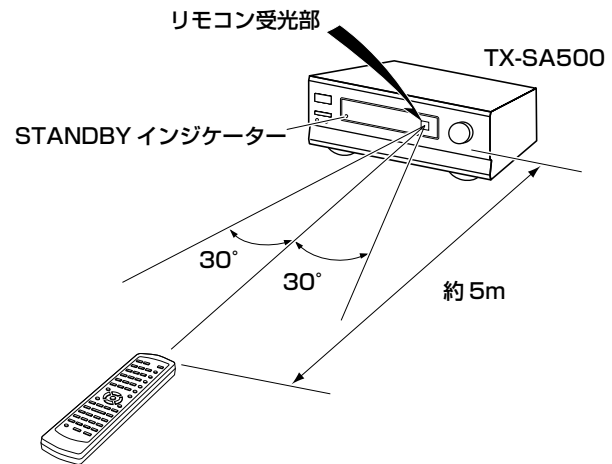
リモコンを準備する

乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向に押し上げてはずす

2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を＋（プラス）と－（マイナス）を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておくと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、ただちに古い電池を取り出して２本とも新しい電池と交換してください。
- 使用頻度にもよりますが、付属の電池の寿命は約6ヵ月です。電池は、単３型をご使用ください。

リモコンを使う

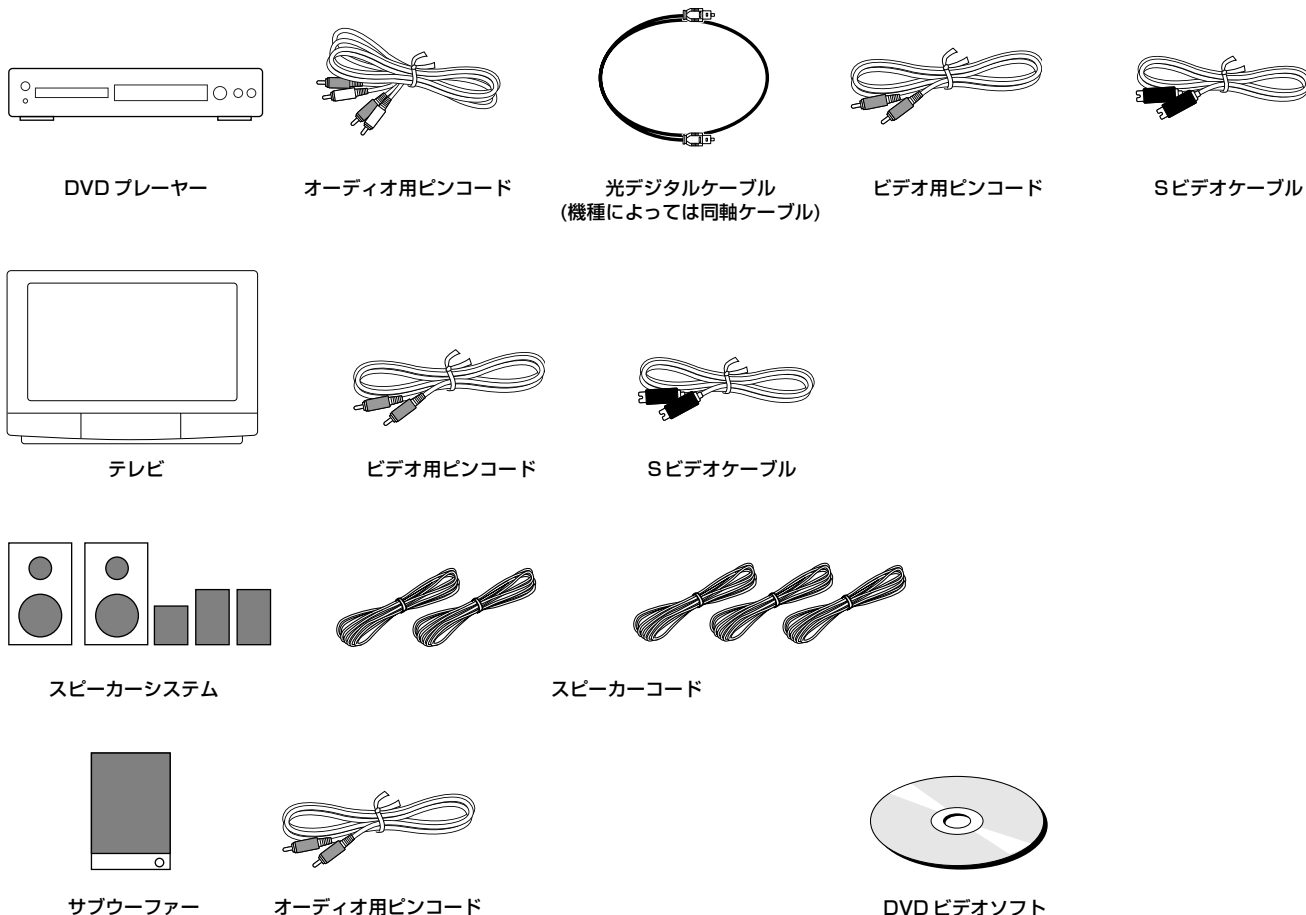
リモコンを本機の受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機のSTANDBY インジケーターが点灯します。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

DVD ホームシアター 早わかりガイド

お手持ちの DVD プレーヤー、テレビ、スピーカー６本（左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファー）を使ってホームシアターを簡単にお楽しみいただくための早わかりガイドです。
他の機器を接続する場合や操作、設定について詳しくは、14 ページ以降をご覧ください。

接続に必要なもの

接続コード類は、各機器に付属または市販のものをご使用ください。また、お手持ちの機器によっては異なる場合がありますので、各機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。

接続のしかた

接続する前に

- 電源コードは、すべての接続が終わるまでコンセントに差し込まないでください。
- 入力端子は、赤いコネクター(R の表示)を右チャンネル、白いコネクター(L の表示)を左チャンネル、黄色のコネクター(VIDEO 表示)をビデオに接続してください。
- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。

1. 各スピーカーの位置を決め、本機とスピーカーを接続する

理想的な配置については、20ページをご覧ください。

2. 本機とテレビを接続する

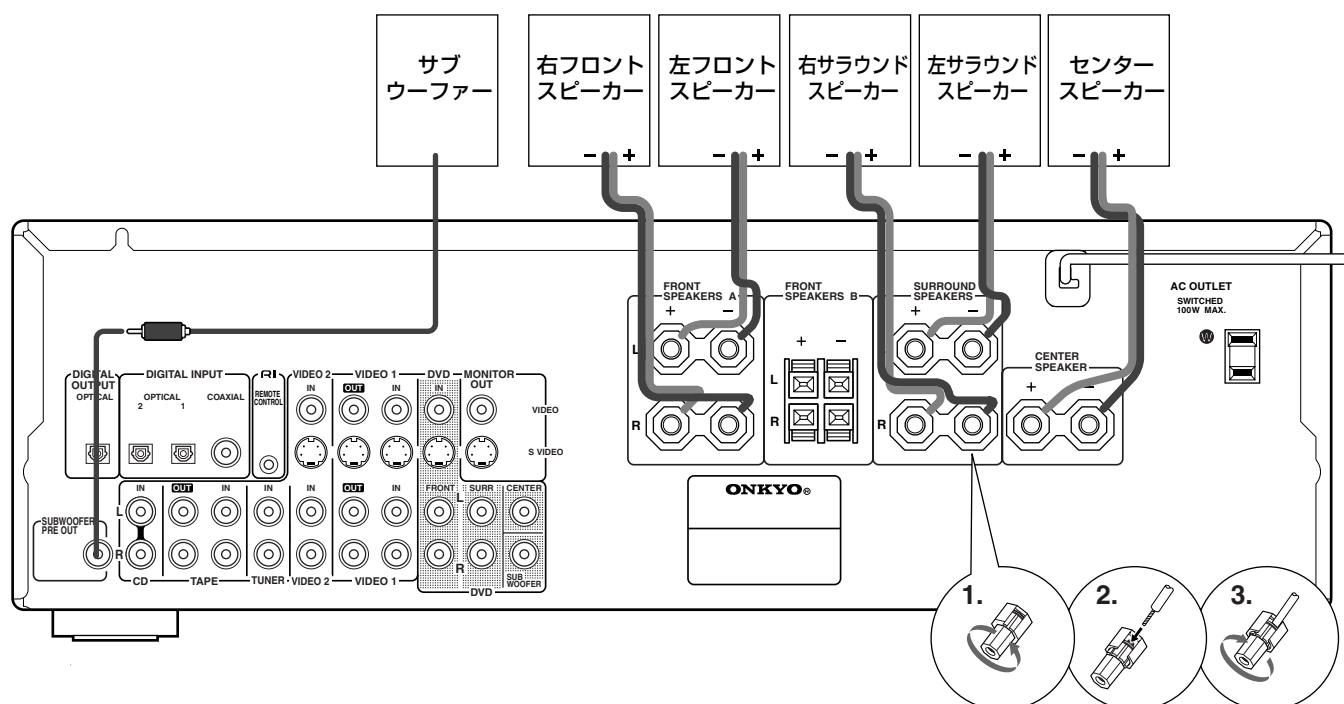
3. 本機とDVDプレーヤーを接続する

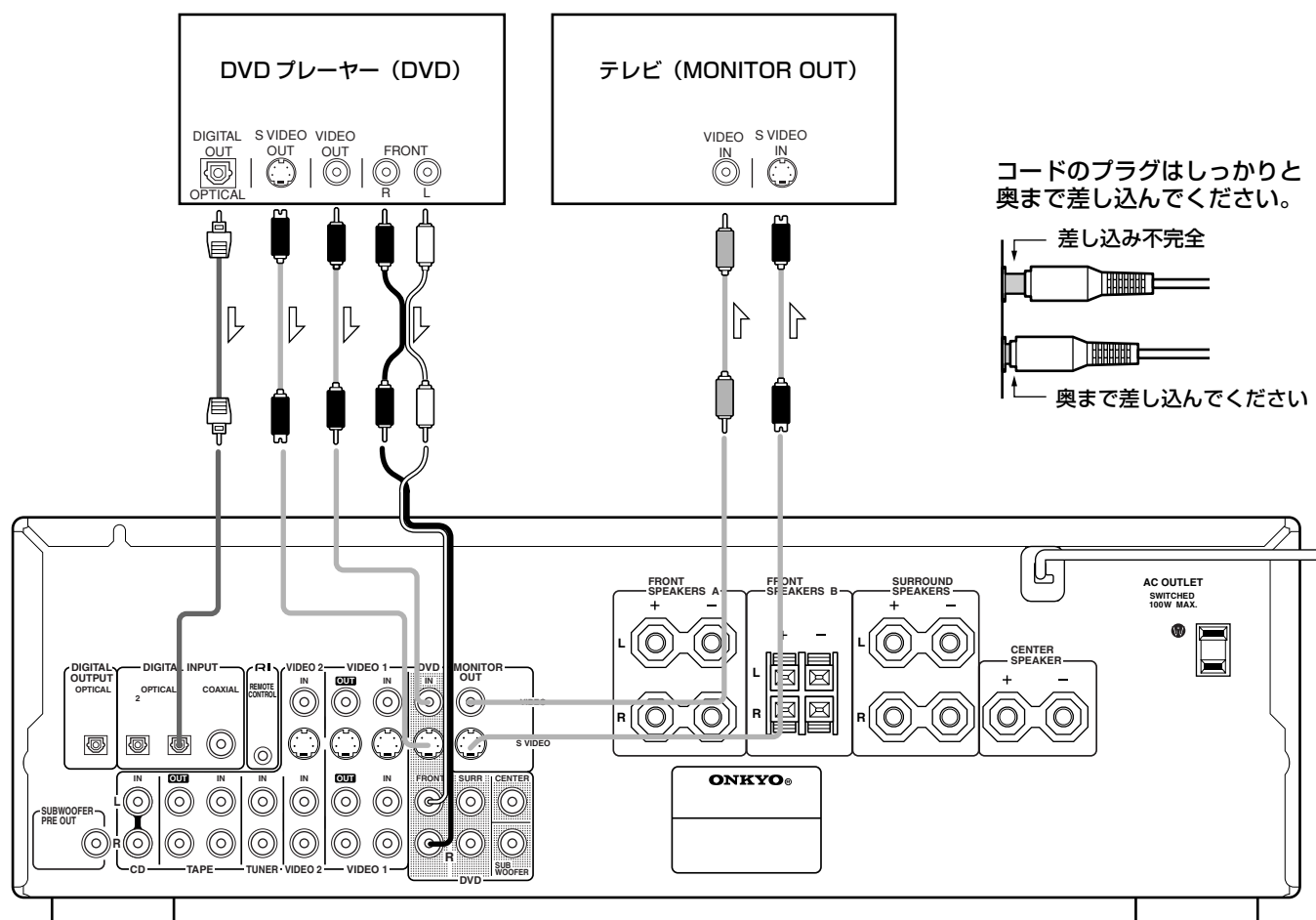
お知らせ

- DVD プレーヤーの映像出力を本機の S VIDEO 端子に接続しているときは、テレビと本機も S VIDEO 端子で接続してください。同様に、DVD プレーヤーと本機を VIDEO 端子で接続しているときは、テレビと本機も VIDEO 端子で接続してください。
- DVD プレーヤーのデジタル出力を接続するときは、本機の OPTICAL 1 端子に接続してください。OPTICAL 2 端子や、同軸ケーブルで COAXIAL 端子に接続する場合は、28 ページの「デジタル入力の設定や変更」で入力ソースに割り当てられているデジタル入力を変更する必要があります。

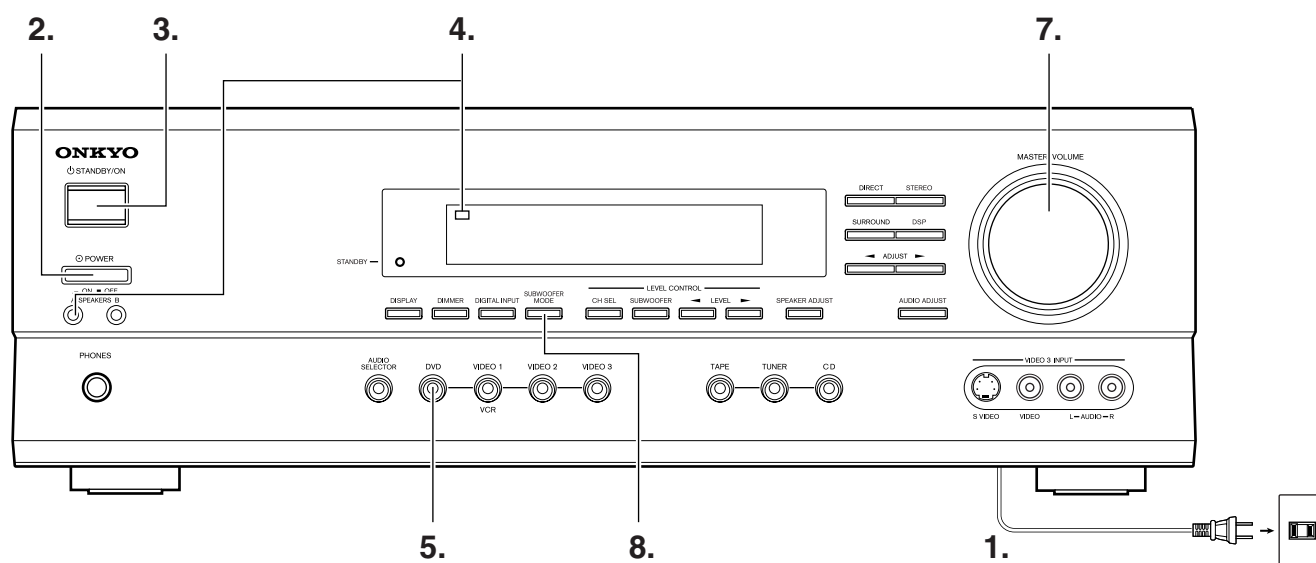
DVD ホームシアター 早わかりガイド

スピーカーシステムの接続

詳しくは 21 ページをご覧ください。

DVD プレーヤー、テレビとの接続

詳しくは 18、19 ページをご覧ください。

操作のしかた

操作する前に

- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れて、他の機器の動作に影響を与えることがあります。コンピューター等の機器とは別系統のコンセントにつないでください。
- 本機は主電源スイッチ（POWER）を入（▬ ON）の状態で工場を出荷されますので、最初に電源コードのプラグをコンセントに差しこむと STANDBY インジケーターが点灯し、下記の手順 2 と同じ状態になります。
- 9 ページをご覧になり、リモコンの準備をしてください。

［　］内の数字は詳しく説明してあるページです。

1. 電源コードを壁のコンセントに接続する[23]

2. POWER（パワー）スイッチを押して主電源を入れる

3. 本機またはリモコンのSTANDBY/ON（スタンバイ／オン）ボタンを押して、電源を入れる

4. 表示部にスピーカーAのインジケーター A が点灯していることを確認する[30]

点灯していない場合は、本体の SPEAKERS A もしくはリモコンの SP A ボタンを押して点灯させてください。

5. 入力切り換えボタンのDVDを押す

6. DVDプレーヤーの再生を始める

7. 本機のMASTER VOLUME（マスターボリューム）つまみ、またはリモコンのVOLUME ▲/▼ボタンで音量を調節する。

8. サブウーファーモードを選ぶ[26]

初期設定では OFF になっていますので音が出ません。Mode1、2、3 の中から選んでください。

お知らせ

より効果的にサラウンド音声をお楽しみいただくには、スピーカー設定をする必要があります。理想的な配置でスピーカーを設置できない場合や、スピーカーの性能にばらつきがある場合は、スピーカーの設定が重要になります。

24 ～ 26 ページをご覧になり、各スピーカーの音量バランスを調整してください。

DVD ホームシアター 早わかりガイド

リモコンでできる主な操作

［　］内の数字は詳しく説明してあるページです。

本機の電源を入／切（スタンバイ）する［23］

選択できるリスニングモードを順に選ぶ［36］

ダイレクトにリスニングモードを選ぶ［36］

シネマフィルターの効果を効かせる［33］

レイトナイトの効果を効かせる［33］

オーディオ入力信号のフォーマットを切り換える［29、32］
押すたびに次の順で切り換わります。
Auto → Multich → Analog

マルチチャンネルを楽しむ［29］
1. 入力ソースを DVD にする
2. AUDIO SELECTOR ボタンを押して、「Multich」を選ぶ

入力ソースを切り換える［27］

一時的に音声を小さくする［30］

スリープタイマーを使う［31］
押すたびに次の順で切り換わります。
90 分→ 80 → 70 → 60 → 50
解除← 10 ← 20 ← 30 ← 40

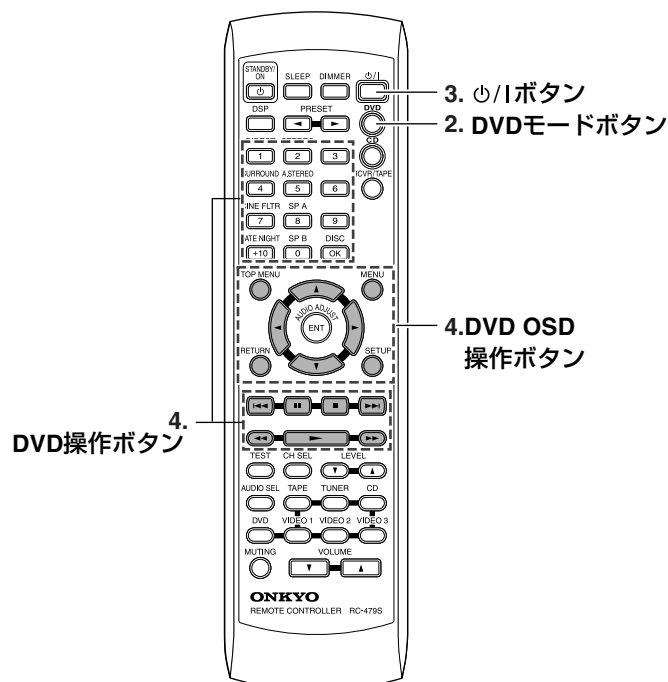
表示部の明るさを変える［31］
押すたびに次の順で切り換わります。
やや暗い→暗い→通常

スピーカー A、スピーカー B をオン／オフする［30］

音量のバランス調整をする［26、32］
1. TEST ボタンを押す
次の順でテスト音が出ます。
フロント右 → センター → フロント左
サブウーファー ← サラウンド右 ← サラウンド左
2. CH SEL でスピーカーを選ぶ
3. LEVEL ▲/▼ で音量を調整する
4. TEST ボタンを押して終了する

音量を調整する［27］

STANDBY/ON　SLEEP　DIMMER　DSP　PRESET　DVD　DIRECT　STEREO　CD　SURROUND　A.STEREO　RCVR/TAPE　CINE FLTR　SP A　LATE NIGHT　SP B　DISC　OK　TOP MENU　MENU　AUDIO ADJUST　ENT　RETURN　SETUP　TEST　CH SEL　LEVEL　AUDIO SEL　TAPE　TUNER　CD　DVD　VIDEO 1　VIDEO 2　VIDEO 3　MUTING　VOLUME
ONKYO
REMOTE CONTROLLER　RC-479S

オンキヨーの DVD プレーヤーを本機のリモコンで操作する

1. RIケーブルで本機とDVDプレーヤーを接続する

RIケーブルはオンキヨー製 DVD プレーヤーに付属しています。詳しい接続のしかたについては、22 ページをご覧ください。

2. DVDモードボタンを押す

3. DVDプレーヤーの電源を入れる

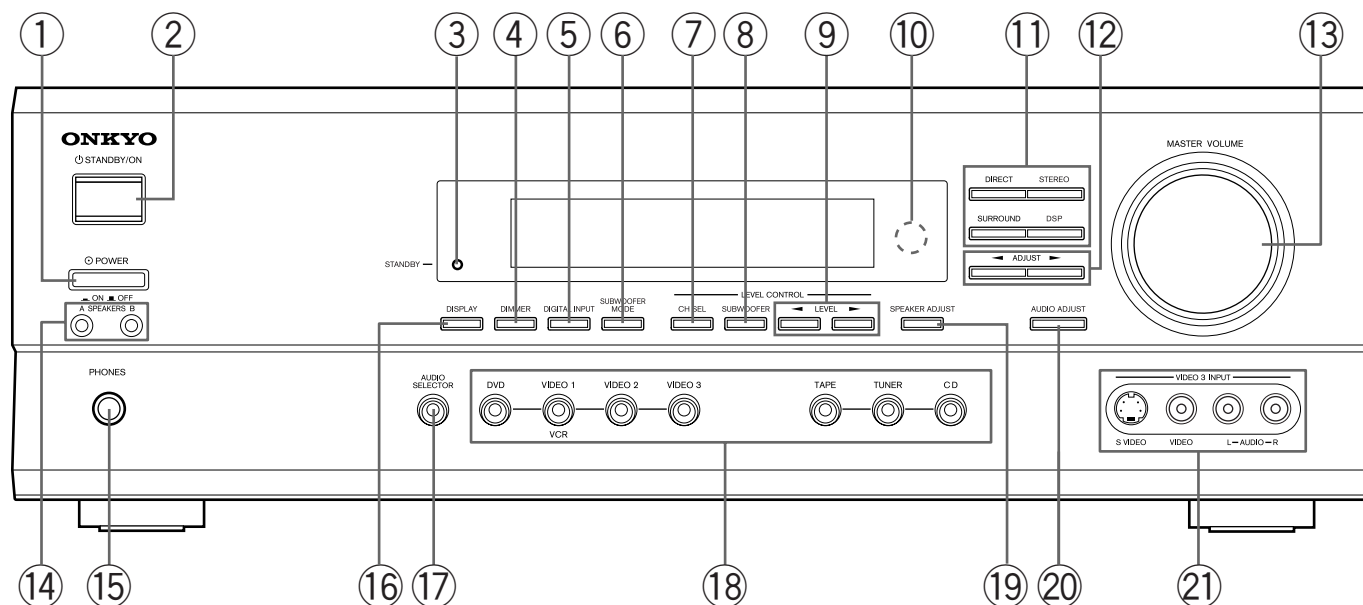
4. DVDプレーヤーを操作する

グレーのボタンが DVD プレーヤー操作用として使用できます。各ボタンの機能については、39 ページをご覧ください。

本機操作用に戻したい場合は RCVR/TAPE ボタンを押します。

各部の名称

前面

詳しい説明は［　］のページをご覧ください。

① POWERスイッチ（主電源）［23］

本機の電源を入れます。主電源が入ると、STANDBYインジケーターが点灯します。もう一度このスイッチを押して切（■ OFF）の状態にすると主電源が切れます。

② STANDBY/ONボタン［23］

主電源が入っているときに押すと、表示部が点灯し、約５秒間音量が表示された後、入力ソースが表示されます。もう一度押すと、本機をスタンバイ状態にします。スタンバイ状態では、表示部が消灯し、操作はできません。

③ STANDBYインジケーター［23］

スタンバイ状態の時やリモコンからの信号を受信するたびに点灯します。

④ DIMMERボタン［31］

表示部の明るさを調整します。「通常」「やや暗い」「暗い」のいずれかに調整できます。

⑤ DIGITAL INPUTボタン［28］

本機のデジタル入力端子にデジタル機器を接続しているときに、接続に合わせてデジタル入力端子を割り当てます。

⑥ SUBWOOFER MODEボタン［26］

サブウーファーモードを選択します。

⑦ CH SELボタン［26、32］

レベル調整したいスピーカーを選びます。

⑧ SUBWOOFERボタン［26］

サブウーファーのレベル調整をしたいときに押します。

⑨ LEVEL ◄/►ボタン［26、32］

CH SELボタンあるいはSUBWOOFERボタンを押して選んだスピーカーのレベルを上げ下げします。

⑩ リモコン受光部［9］

リモコンからの操作信号を受けます。

⑪ LISTENING MODEボタン［36］

リスニングモードを選びます。

DSPボタンを押すと、オンキヨー独自のDSPモードを順に呼び出すことができます。DIRECT、STEREO、SURROUNDボタンを押すと、直接そのリスニングモードを呼び出すことができます。

⑫ ADJUST ◄/►ボタン［24、25、32］

AUDIO ADJUSTやSPEAKER ADJUST、AUDIO SELECTORなどで選んだモードの数値やパラメーターの調整をするときに使います。

⑬ MASTER VOLUMEつまみ［27］

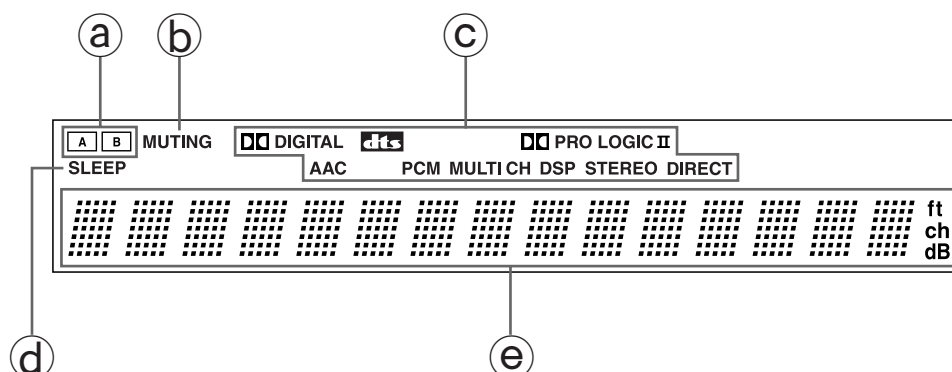
音量を調整します。右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。

⑭ SPEAKERS A/Bボタン［27、30］

SPEAKERS A ボタンでスピーカーシステム A を、SPEAKERS B ボタンでスピーカーシステム B をオン／オフします。オンにすると、表示部のスピーカー A/B 表示が点灯します。A と B を同時に使用することもできます。

各部の名称

表示部

詳しい説明は［　］のページをご覧ください。

⑮ PHONES（ホーンズ）端子［30］

ステレオヘッドホンを接続するための標準ステレオ端子です。左右フロントスピーカーの音声がヘッドホンに出力されます。

⑯ DISPLAY（ディスプレイ）ボタン［31］

押すたびに、表示内容が切り換わります。

⑰ AUDIO（オーディオ） SELECTOR（セレクター）ボタン［29、32］

オーディオ入力信号のフォーマットを選びます。押すたびに、入力信号のフォーマットが切り換わります。

⑱ 入力切り換えボタン（DVD（ディーヴィディ）、VIDEO（ビデオ） 1〜3、TAPE（テープ）、TUNER（チューナー）、CD）［27］

入力ソースを選びます。TAPEボタンを2秒押すとTAPEとMD の切り換えができます。

⑲ SPEAKER（スピーカー） ADJUST（アジャスト）ボタン［24、25］

スピーカー設定をするときの設定項目を呼び出します。

⑳ AUDIO（オーディオ） ADJUST（アジャスト）ボタン［33］

バス／トレブルなどの音質調整、シネマ･フィルターやレイトナイト機能の設定をするときに押します。

㉑ VIDEO（ビデオ） 3 INPUT（インプット）端子［37］

ビデオカメラやゲーム機器などを接続します。

ⓐ スピーカー A/B表示［30］

選んでいるスピーカーシステムを表示します。

ⓑ MUTING（ミューティング）表示［30］

ミュート機能使用時に点滅します。

ⓒ ソース／リスニングモード表示［27、36］

ソース（音源）のフォーマットに応じていずれかのソース表示が点灯します。また、リスニングモードに応じていずれかのリスニングモード表示が点灯します。

ⓓ SLEEP（スリープ）表示［31］

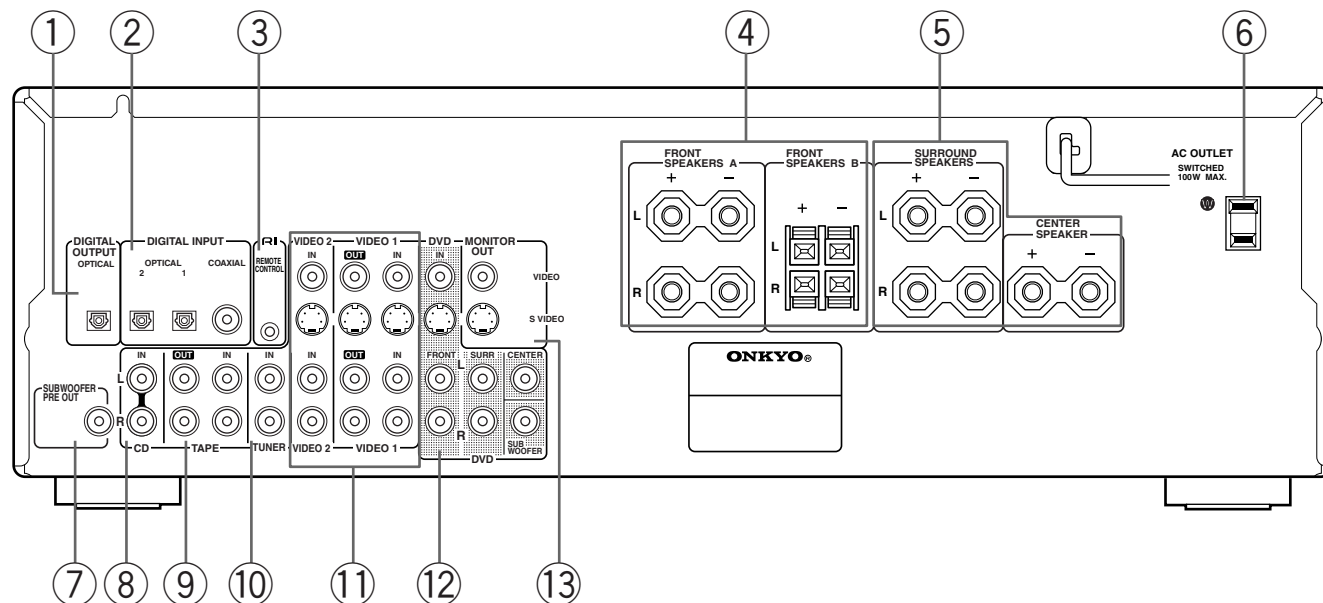
スリープ機能使用時に点灯します。

ⓔ 多目的表示部

通常は入力ソースと音量が表示されます。DISPLAY（ディスプレイ） ボタンを押すとリスニングモードや入力ソースのプログラムフォーマットが表示されます。

各部の名称

背面

詳しい説明は［　］のページをご覧ください。

デジタル　アウトプット
① DIGITAL OUTPUT端子［18］

デジタル出力端子として、光端子（OPTICAL）が1系統あります。MDレコーダーやCDレコーダー、DATなどを接続します。この端子はDIGITAL INPUT端子から入力された信号のみを出力します。

デジタル　インプット
② DIGITAL INPUT端子［18、19］

デジタル入力端子として、光端子（OPTICAL）が2系統、同軸端子（COAXIAL）が1系統あります。これらの入力端子にDVDプレーヤー、ハードディスクレコーダー、CDプレーヤーなどのデジタルソース機器を接続します。

③ RI端子［22］

RI端子付きのオンキヨー製CDプレーヤーやカセットテープデッキなどを、各機器に付属のRIケーブルで接続すると、本機に付属のリモコンでこれらの機器を操作することができます。

RI端子を接続したあとは、他機操作用のリモコンボタンを確認してください。（☞38、39ページ）

フロント　スピーカー
④ FRONT SPEAKERS A/B端子［21］

左右フロントスピーカーを接続します。A、Bの2系統接続することができます。SPEAKERS A端子はバナナプラグにも対応しています。

サラウンド　スピーカー　センター
⑤ SURROUND SPEAKERS端子、CENTER SPEAKER端子［21］
（スピーカー）

センター、左右サラウンドの各スピーカーを接続します。

エーシー　アウトレット
⑥ AC OUTLET（電源コンセント）［19］

本機裏面の電源コンセントに他機の電源コードを接続することができます。他機の電源スイッチをオンのままにしておけば、本機のPOWERスイッチと連動させて他機の電源も入れたり切ったりすることができます。

サブウーファー　プリ　アウト
⑦ SUBWOOFER PRE OUT端子［21］

アクティブサブウーファー（アンプ内蔵のサブウーファー）を接続します。

シーディーイン
⑧ CD IN端子［18］

CDプレーヤーを接続します。

テープ　イン　アウト
⑨ TAPE IN/OUT端子［18］

カセットテープデッキやMDレコーダーなどの録音機器を接続します。

チューナー　イン
⑩ TUNER IN端子［18］

チューナーを接続します。

ビデオ　イン　アウト　イン
⑪ VIDEO 1 IN/OUT、2 IN端子［19］

VIDEO 1にはビデオカセットレコーダーを接続します。
VIDEO 2にはビデオカセットプレーヤーやBS/CSチューナーなどを接続します。

ディーヴィディ
⑫ DVD端子［19］

DVDプレーヤーや5.1チャンネルの外部デコーダーを接続します。

FRONT　L/R端子は通常のアナログ入力としてもお使いいただけます。

モニター　アウト
⑬ MONITOR OUT端子［18］

モニター出力には映像端子（VIDEO）とS映像端子（S VIDEO）があります。テレビまたはプロジェクターを接続します。

お知らせ

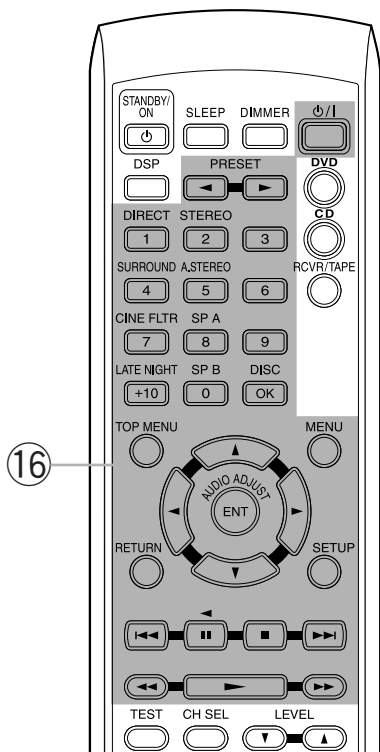
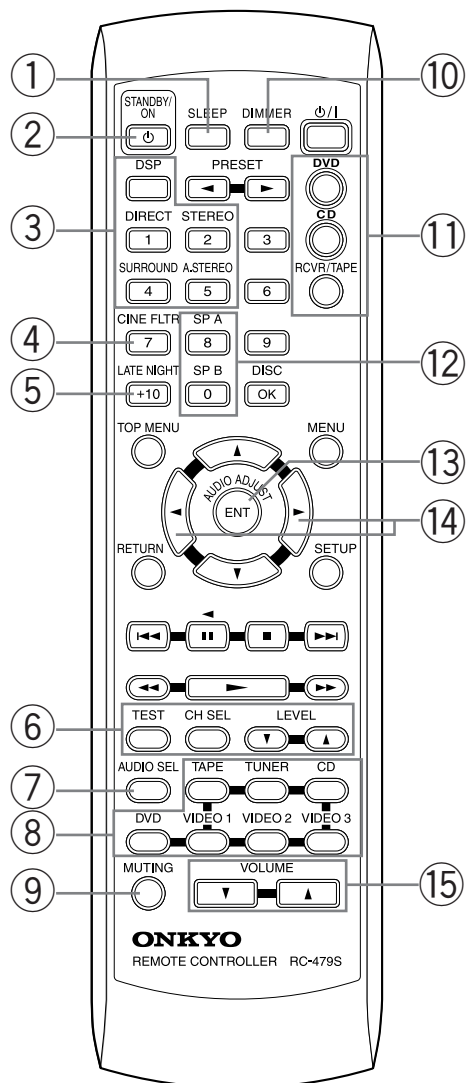
本機の音声入力端子には、レコードプレーヤーを直接接続することはできません。

レコードプレーヤーを接続する場合は、フォノイコライザー（当社製PE-155など）をお買い求めの上、空いている音声入力端子（IN L/R）に接続してください。

詳しくは、フォノイコライザーやレコードプレーヤーに添付の取扱説明書をご覧ください。

各部の名称

リモコン

詳しい説明は［ ］のページをご覧ください。

① SLEEPボタン［31］

スリープ時間を設定します。
リモコンのみの機能です。

② STANDBY/ONボタン［23］

本機の電源を入れたり、スタンバイ状態にします。

③ リスニングモード切り換えボタン［36］

リスニングモードを選びます。

④ CINE FLTRボタン［33］

シネマ・フィルター機能をオン／オフします。

⑤ LATE NIGHTボタン［33］

レイトナイト機能をオン／オフします。

⑥ TEST/CH SEL/LEVEL ▲/▼ ボタン［26、32］

各スピーカーの音量を調整するときに使います。

⑦ AUDIO SELボタン［29、32］

オーディオ入力信号のフォーマットを選びます。

⑧ 入力切り換えボタン［27］

入力ソースを選びます。

⑨ MUTINGボタン［30］

ミュート機能をオン／オフします。
リモコンのみの機能です。

⑩ DIMMERボタン［31］

表示部の明るさを調整します。

⑪ モード切り換えボタン［38、39］

操作する機器（DVD/CD/TAPE）を選びます。

⑫ SP A/SP Bボタン［30］

スピーカーシステム A/B をオン／オフします。

⑬ AUDIO ADJUSTボタン［33］

バス／トレブルなどの音質調整、シネマ・フィルターやレイトナイト機能の設定をするときに押します。

⑭ ADJUST ◄/► ボタン［24、25、32］

AUDIO ADJUST や SPEAKER ADJUST、AUDIO SELECTOR などで選んだモードの数値やパラメーターの調整をするときに使います。

⑮ VOLUME ▲/▼ ボタン［27］

音量を調整します。

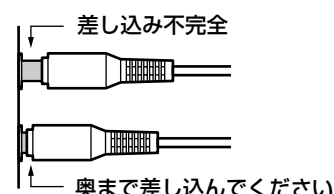
⑯ 他機操作ボタン［38、39］

TAPE/DVD/CD/TUNER 端子に接続したオンキヨー製品を操作するときに使用します。

オーディオ／ビデオ機器を接続する

ここでは本機に主な機器を接続する一般的な方法を説明します。各コネクターや端子の特性（☞16ページ参照）および各機器の特長を十分理解し、目的に応じて最適な方法で接続してください。

- **接続する機器に付属の説明書も必ずお読みください。**
- **電源コードは、すべての接続が終わるまで接続しないでください。**
- **入力端子は、赤いコネクター（Rの表示）を右チャンネル、白いコネクター（Lの表示）を左チャンネル、黄色のコネクター（VIDEO表示）をビデオに接続してください。**

- **コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因となります。**

- **ビデオコード、オーディオ用ピンコード類は、電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。**
- **光端子に接続するときは、キャップをはずしてください。光端子を使用しないときは、必ずキャップをはめてください。**

CDのデジタル出力は、COAXIAL端子に割り当てられています。お手持ちのCDプレーヤーがOPTICAL出力の場合は、光デジタルケーブルでOPTICAL 1端子やOPTICAL 2端子に接続し、28ページの「デジタル入力の設定や変更」にしたがって、入力ソースに割り当てられているデジタル入力を変更してください。

CDプレーヤー（CD）
AUDIO OUT R L / DIGITAL OUT COAXIAL

テレビまたはプロジェクター（MONITOR OUT）
VIDEO IN / S VIDEO IN

これは、同軸ケーブルでCOAXIAL端子に接続する場合の例です。

ご注意
本機のS映像入力端子へ入った信号はS映像出力端子へ、ビデオ入力端子への信号はビデオ端子へのみ、出力されます。ビデオカセットレコーダーなどをビデオ用ピンコードのみで接続している場合は、テレビ等へも必ずビデオ用ピンコードで接続してください。

ビデオ	**ビデオ用ピンコード（アナログ信号）**
Sビデオ	**Sビデオケーブル（Sビデオ信号）**
音声（左）／音声（右）	**オーディオ用ピンコード（アナログ信号）**
OPTICAL（光）	**光デジタルケーブル（デジタル信号）**
COAXIAL（同軸）	**同軸（コアキシアル）ケーブル（デジタル信号）**

電源コードはまだ接続しないでください。

△ 信号の流れ

カセットテープデッキ、MDレコーダー、DAT、CDレコーダー（TAPE）
DIGITAL IN OPTICAL / DIGITAL OUT OPTICAL / AUDIO IN (REC) R L / AUDIO OUT (PLAY) R L

チューナー（TUNER）
AUDIO OUT R L

- **TAPE端子に接続している機器のデジタル出力を接続するときは、本機のOPTICAL 2端子に接続してください。OPTICAL 1端子やCOAXIAL端子に接続する場合は、28ページの「デジタル入力の設定や変更」で入力ソースに割り当てられているデジタル入力を変更する必要があります。**
- **光デジタル入力端子のある機器の場合は、本機のDIGITAL OUTPUT端子に接続して下さい。**
- **TAPE OUT端子には、DIGITAL INPUT端子から入力された信号は出力されません。（アナログ変換は行いません。）**

オーディオ／ビデオ機器を接続する

DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、MONITOR OUT 端子について

S ビデオ端子接続またはビデオ接続は、テレビの接続に合わせてどちらかを接続してください。

・ DVD プレーヤーのオーディオ出力が 2 チャンネルのみの場合は、FRONT L/R に接続してください。

・ DVD プレーヤーのデジタル出力を接続するときは、本機の OPTICAL 1 端子に接続してください。OPTICAL 2 端子または COAXIAL 端子に接続する場合は、28 ページの「デジタル入力の設定や変更」で入力ソースに割り当てられているデジタル入力を変更する必要があります。

- 本機の電源コンセントに 100W を超える機器は絶対に接続しないでください。
- 本機の電源コンセントはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。他機の電源コードの白いラインなどの目印側を、本機の電源コンセントの広い方（Ⓦマーク側）に合わせて接続してください。他機の電源コードに極性表示がない場合は、どちらを接続してもかまいません。

＊ AC-3RF 出力端子のついている LD プレーヤーを接続する場合は、AC-3 RF デモジュレーターを通して DIGITAL INPUT 端子に接続してください。

（注）テレビの接続（S VIDEO、VIDEO）に合わせてどちらかを接続してください。

・ VIDEO 1 や VIDEO 2 に BS チューナーなどのデジタル出力端子のある機器を接続するときは、本機の DIGITAL INPUT 端子に接続することができます。この場合は、28 ページの「デジタル入力の設定や変更」で、VIDEO 1 もしくは VIDEO 2 に該当するデジタル入力を割り当ててください。

・ VIDEO 1 OUT 端子には、DIGITAL INPUT 端子から入力された信号は出力されません。（アナログ変換は行いません。）

スピーカーを配置する／接続する

本機には、２系統のスピーカー端子（FRONT SPEAKERS A、FRONT SPEAKERS B）があります。
スピーカーシステム A はメインルームに、スピーカーシステム B はサブルームに置くなどの使い方ができます。

スピーカーシステム A のスピーカー構成
フロントの左、センター、右スピーカー、サラウンドの左右スピーカー、サブウーファーが接続でき、マルチチャンネル再生ができます。

スピーカーシステム B 系統のスピーカー構成
フロント左右スピーカーのみが接続でき、ステレオでの再生ができます。

スピーカーシステム A の標準的なスピーカー配置

サラウンドを効果的に楽しむためには、スピーカーを正しく配置することが必要です。

スピーカーの配置は、部屋の大きさや壁の材質などによっても変わってきますが、ここでは標準的なスピーカー配置を紹介します。以下を参考にしてサラウンド音声を最大限に生かしてください。

右の図のように、すべてのスピーカーを接続すると最も理想的なサラウンド効果を得ることができます。

しかし、センタースピーカーやサブウーファーがないときは、センタースピーカーやサブウーファーから出力される音声を他のスピーカーに最適に配分し、現在のスピーカー構成で可能なサラウンド効果を最大限に引き出します。

テレビ／スクリーン
左フロントスピーカー
サブウーファー
センタースピーカー
右フロントスピーカー
左サラウンドスピーカー
右サラウンドスピーカー
視聴位置

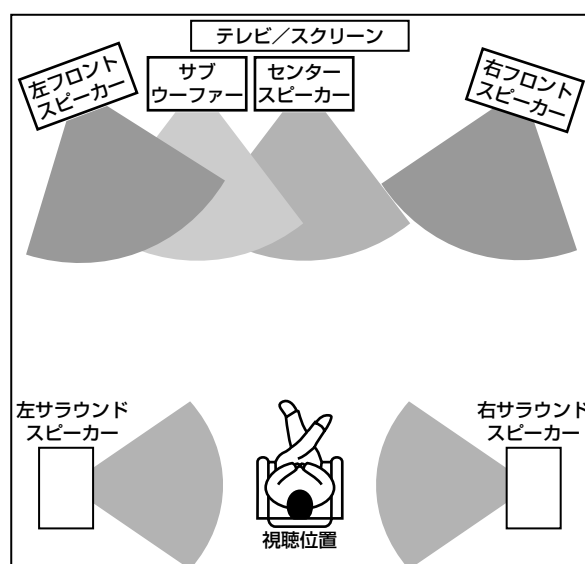
フロントスピーカーについて
フロントスピーカーのうち、センタースピーカーは音源効果や、音の動きを高め、より豊かなサウンドイメージを再現します。

- 左右スピーカーとセンターの３つのスピーカーを音楽や映画を鑑賞する人（リスナー）に向けて配置します。
- 高さはリスナーの耳の位置に調節します。

サラウンドスピーカーについて
サラウンドスピーカーは音の立体的な動きを表現し、あたかもその場にいるかのような臨場感を高めます。

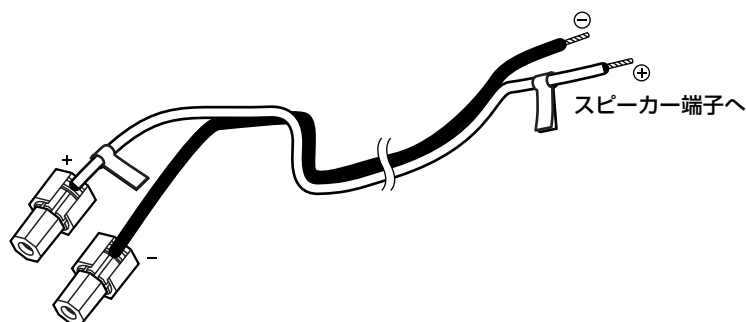
- 左右のサラウンドスピーカーは左右から向き合うようにし、リスナーがサラウンドスピーカーからの音の広がりの範囲内に入るように設置します。
- 高さは、リスナーの耳の位置より１メートル高くなるように調節します。

サブウーファーについて
アンプ内蔵のサブウーファーを使用してください。力強い重低音を再現します。
サブウーファーはどこに配置しても音響効果にはさほど影響を与えません。置きやすい場所に設置してください。

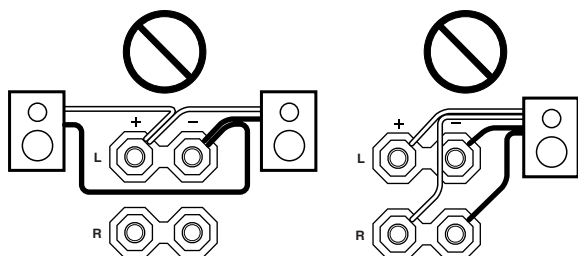
スピーカーの取扱説明書も同時に参照し、最も効果のあるサラウンド音声をお楽しみください。

付属のスピーカーラベルの使い方

本機のスピーカー端子は＋側に色をつけて識別しやすくしていますので、付属のスピーカーラベルをスピーカーケーブルに貼ることにより、スピーカーを確実に接続することができます。
スピーカーケーブルにラベルを貼り、ラベルと同じ色のスピーカー端子に接続してください。

各端子は以下のように色分けされています。

左フロント（＋）	白
右フロント（＋）	赤
センター（＋）	緑
左サラウンド（＋）	青
右サラウンド（＋）	灰色

スピーカーを配置する／接続する

接続する前に

- 接続するスピーカーの取扱説明書も参照してください。
- プラス（＋）とマイナス（－）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。音声が不自然になります。
- スピーカーはインピーダンスが 6Ω ～ 16Ω のものを接続してください。6Ω 未満のスピーカーを接続すると、アンプが故障することがあります。
- 回路の故障を防ぐため、スピーカーコードの芯線を絶対にショートさせないでください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1 台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1 台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

サブウーファーの接続

パワーアンプ内蔵のサブウーファーは、オーディオ用ピンコードを使って SUBWOOFER PRE OUT 端子に接続します。

アンプを内蔵していないサブウーファーの場合は、アンプを SUB WOOFER PRE OUT 端子に接続し、サブウーファーをアンプに接続してください。

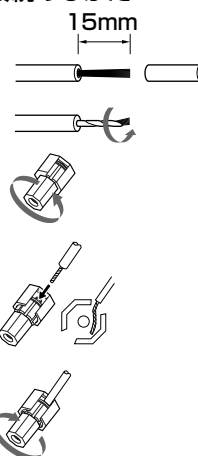
FRONT SPEAKERS A、SURROUND SPEAKERS および CENTER SPEAKER 端子への接続のしかた

1. スピーカーコードの先のビニール（絶縁体）部分を、芯線を残して 15mm はがし、露出した芯線をよじる。

15mm

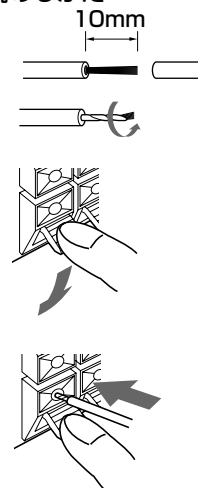
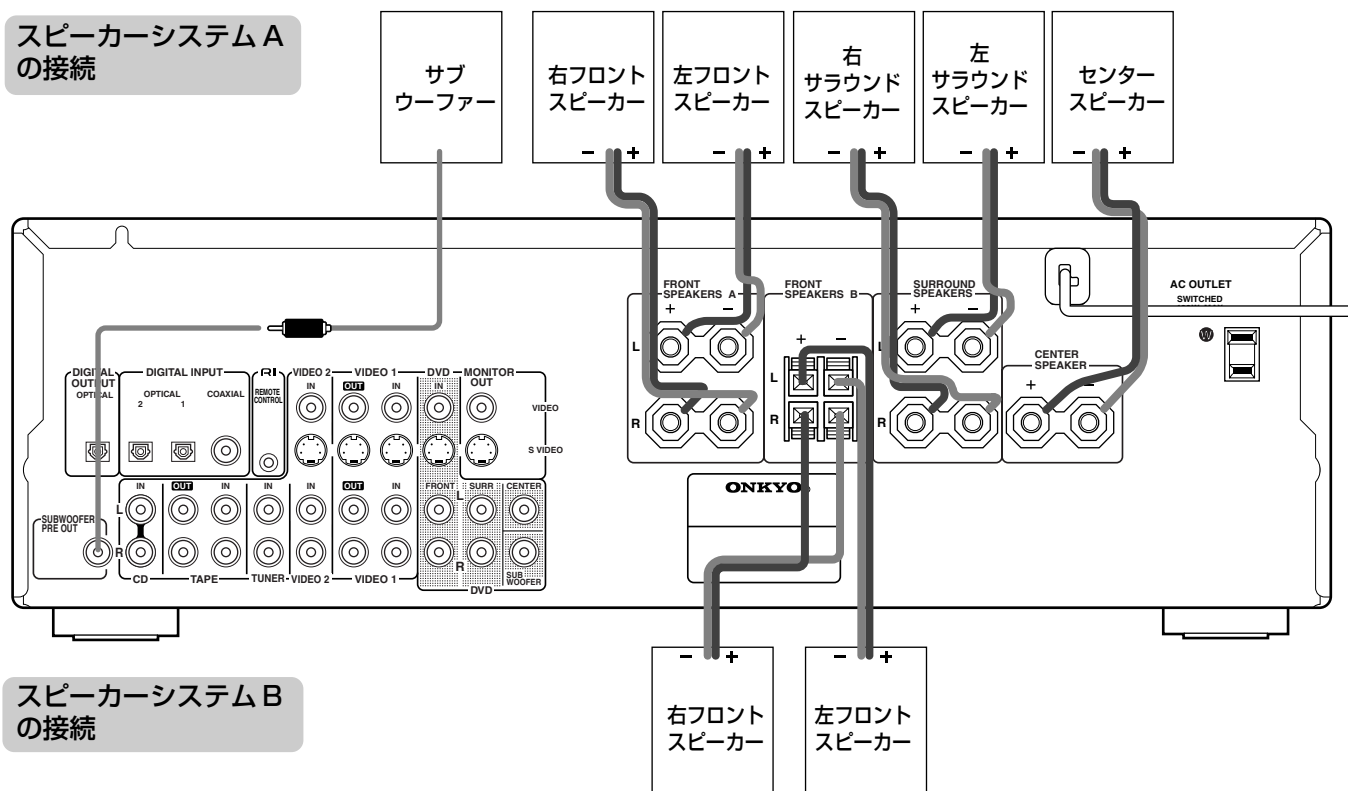
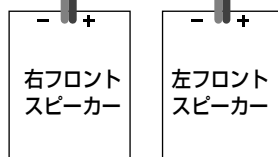
2. スピーカー端子をゆるめる

3. スピーカーコードの芯線を奥まで差し込む

4. スピーカー端子を締め付けスピーカーコードを固定する

FRONT SPEAKERS B 端子への接続のしかた

1. スピーカーコードの先のビニール（絶縁体）部分を、芯線を残して 10mm はがし、露出した芯線をよじる。

2. つまみを押して広げる

3. スピーカーコードの芯線を奥まで差し込む
   指をはなすとつまみが元の位置に戻ります。

RI端子付きオンキヨー製品を接続する

本機のRI端子は、同じRI端子を持つオンキヨー製品と接続するためのものです。RI接続した機器は、本機のリモコンで操作することができます。

さらに、次のようなシステム操作ができます。

電源オン／レディ機能

本機がスタンバイ状態のとき、RI接続した機器の電源を入れると、本機の電源が自動的に入り、入力ソースも接続機器に切り換わります。ただし、RI接続した機器の電源コードが本機の電源コンセント（AC OUTLET）に接続されている場合や、本機の電源が入っている場合は、この機能は働きません。

ダイレクトチェンジ機能

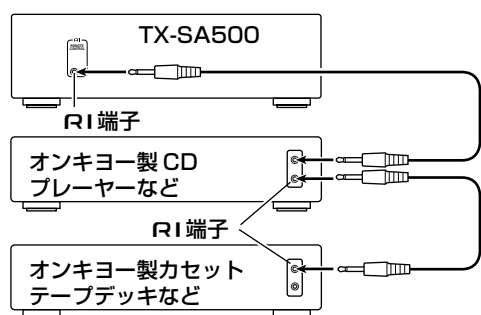
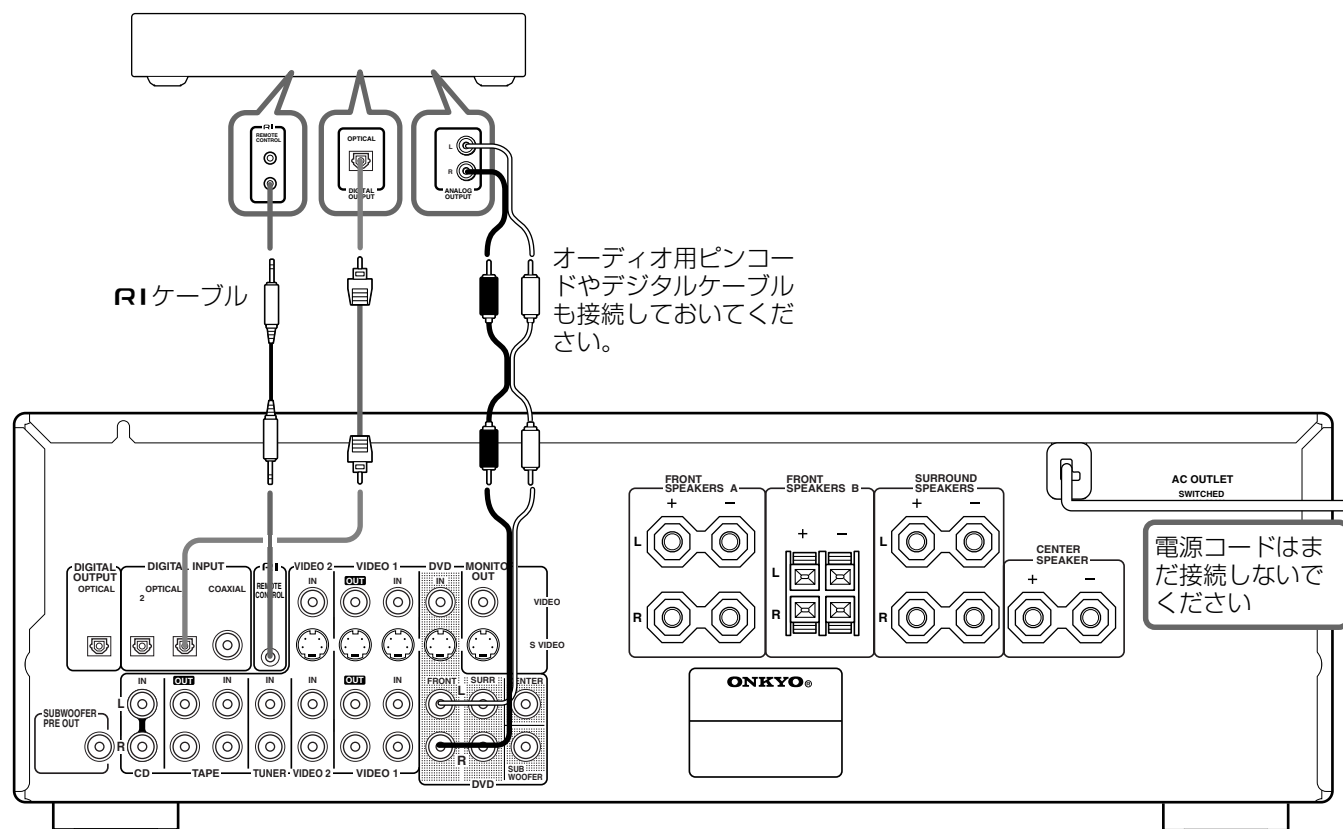
RI接続した機器を再生すると、本機の入力ソースが自動的に再生中の機器に切り換わります。

電源オフ機能

本機をスタンバイ状態にすると、RI接続した機器すべてがスタンバイ状態になります。

お知らせ

- MD レコーダーは本機の TAPE 端子に接続してください。またその場合は、本機の入力を TAPE から MD に切り換えてください。（☞29 ページ）
- RI接続した場合も、ピンコードでの接続は必要です。

RI端子付きオンキヨー製品（例：DVD プレーヤー）

RI端子付きオンキヨー製品が 2 台以上ある場合の接続例

- 本機にRI接続した機器が 2 つのRI端子を持っている場合は、もう一方のRI端子にさらにRI端子付きの機器を接続することができます。機器による接続順序は特にありません。
- プラグは奥までしっかり接続してください。
- 必ずRIマークの付いた端子に接続してください。
- 本機のRI端子は、オンキヨー製品以外の機器とは接続しないでください。故障の原因になります。

ご注意

一部の機器ではシステム動作しないことがあります。

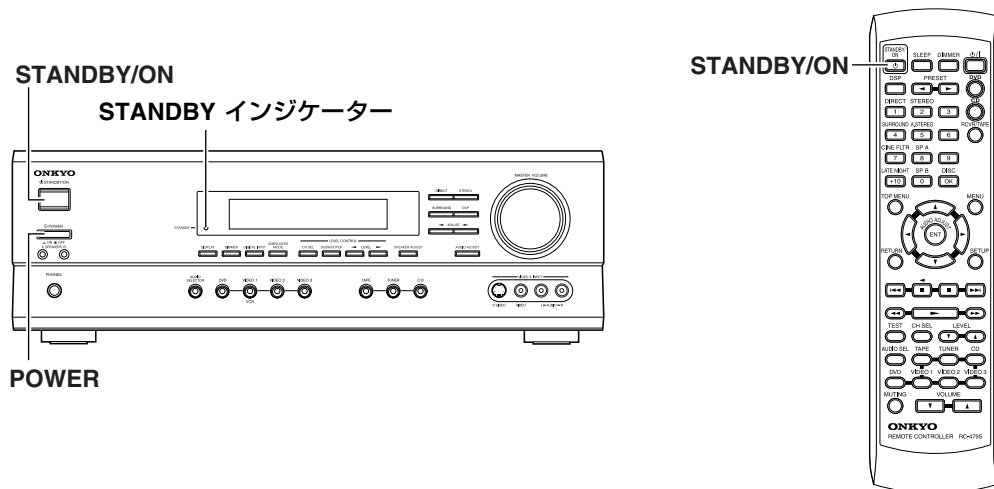
電源を入れる

接続する前に

- 18 ～ 22 ページの接続がすべて終了しているか確認してください。
- 本機の電源を入れると瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響を与えることがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントにつなぐようにしてください。

ご注意

本機を最初にお使いになるときは

本機は主電源スイッチ（POWER ）を入（▬ ON ）の状態で工場を出荷されますので、最初に電源コードのプラグをコンセントに差し込むと STANDBY インジケーターが点灯し、下記の手順 2 と同じ状態になります。

本機の電源を入れる

1. 電源コードを壁のコンセントに接続する

2. POWERスイッチを押して主電源を入れる

本機がスタンバイ状態になり、STANDBY インジケーターが点灯します。

主電源がオフになっているとリモコンのボタンは働きません。

3. 本機、またはリモコンのSTANDBY/ONボタンを押して、電源を入れる

電源が入り、STANDBY インジケーターが消灯します。

本機の電源を切り、スタンバイ状態にするには、本機またはリモコンの STANDBY/ON ボタンを押します。

次回使用時のために、音量を最小にしてから、電源を切ってください。

お知らせ

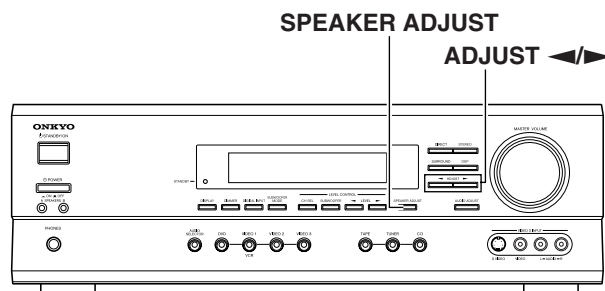
電源コードはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。電源コードの白線マークのほうを家庭用の電源コンセントの溝の広いほうに合わせて差し込んでください。

スピーカーの設定をする

マルチチャンネル再生を楽しむには、スピーカーの構成や、クロスオーバー周波数の設定、ディレイタイム（遅延時間）、音量バランスの調整をする必要があります。ここでは、スピーカーシステム A（☞20 ページ）の設定をします。（スピーカーシステム B の設定はありません。）

スピーカー構成や配置を変えない限り、通常は設定をくり返す必要はありません。

ご注意

ヘッドフォンを接続しているときや、スピーカーシステム B がオンになっているとき、Multich 選択時、再生中は設定できません。

スピーカー構成を設定する

1. SPEAKER ADJUSTボタンを押して「Speaker:」表示にする

2. ADJUST ◄/►ボタンをくり返し押して、スピーカー構成を選ぶ

2ch、3ch、4ch、5ch の中から選びます。

お知らせ

- 現在のリスニングモードが選択できないスピーカー構成を設定した場合、自動的にリスニングモードが変化します。
- 表示部が通常表示のときに現在設定されているスピーカー構成を確認するときは、SPEAKER ADJUST ボタンを 1 度だけ押します。

クロスオーバー周波数を設定する

スピーカーの能力にあわせてクロスオーバー周波数を設定します。

設定した周波数以下の低音域をサブウーファーから出力し、設定した周波数以上をその他のスピーカーから出力します。初期設定は 80Hz となっています。

1. SPEAKER ADJUSTボタンをくり返し押して、「CrossOver」表示にする

押すたびに、Speaker → CrossOver → CenterDelay → Surr Delay → …と表示されます。

2. ADJUST ◄/► ボタンをくり返し押して、クロスオーバー周波数を選ぶ

80Hz、100Hz、120Hz の中から選んでください。

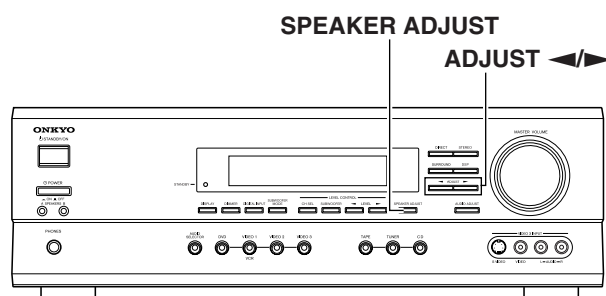
下記の例を設定の目安にしてください。

サブウーファー以外のスピーカーが比較的小型の場合（低音域があまり出ないスピーカーの場合）：**120Hz**

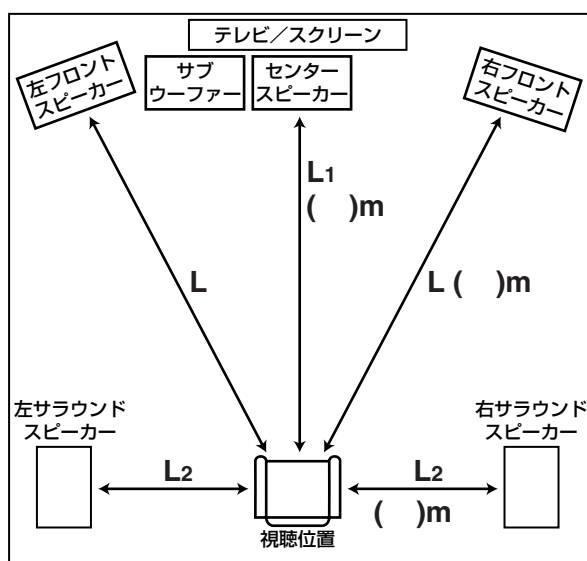
サブウーファー以外のスピーカーが比較的大型の場合（低音域が良く出るスピーカーの場合）：**80Hz**

より正確に設定したい場合は、各スピーカーの説明書などをご覧になり、スピーカーの再生周波数帯域に合わせて設定してください。

また、実際に聞いてみて、サブウーファーから出る音が足りない場合は高めに、逆にうるさく感じる場合は低めに設定するなどして、ちょうど良いと感じた周波数に設定してください。

スピーカーの設定をする

各スピーカーと視聴位置の距離を測る

ここでは、フロント、センター、サラウンドの各スピーカーから視聴位置に音が届く時間のズレ（遅延時間）を入力します。視聴位置から各スピーカーまでの距離をまず測り、計算した数字を表にあてはめ、そこから設定するディレイ値を割り出します。

視聴位置から左右フロントスピーカーまでの距離を（L）とします。
視聴位置からセンタースピーカーまでの距離を（L_1）とします。
視聴位置からサラウンドスピーカーまでの距離を（L_2）とします。

計算値（m）	センターディレイ値（ms）	サラウンドディレイ値（ms）
0	0	0
0.3	1	1
0.6	2	2
0.9	3	3
1.2	4	4
1.5	5	5
1.8	—	6
2.1	—	7
2.4	—	8
2.7	—	9
3.0	—	10
3.3	—	11
3.6	—	12
3.9	—	13
4.2	—	14
4.5	—	15

センターディレイの設定

測った距離から（L）と（L_1）の差を求め、表からその値にもっとも近い数字を探し、そこからセンターディレイ値を求めます。

たとえば、（L）が 3m、（L_1）が 2m の場合

（L）－（L_1）＝３－２＝１m

となります。

１m は表を見ると 0.9m がもっとも近いので、設定するセンターディレイ値は３となります。

1. SPEAKER ADJUSTボタンをくり返し押して「CenterDelay」表示にする

2. ADJUST ◄/►ボタンをくり返し押して、センターディレイの数値を選ぶ

0、1、2、3、4、5ms の中から選びます。

初期値は 0ms になっています。

サラウンドディレイの設定

測った距離から（L）と（L_2）の差を求め、表からその値にもっとも近い数字を探し、そこからサラウンドディレイ値を求めます。初期値は 5ms になっています。

たとえば、（L）が 3m、（L_2）が 1m の場合

（L）－（L_2）＝３－１＝2m

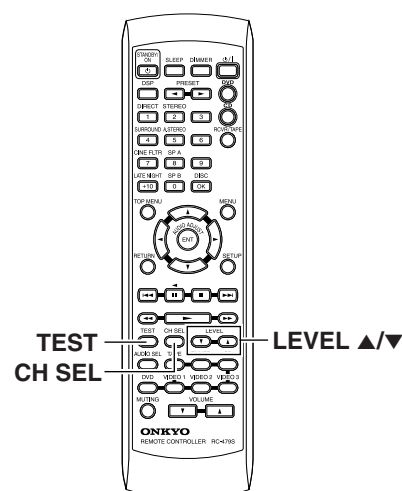
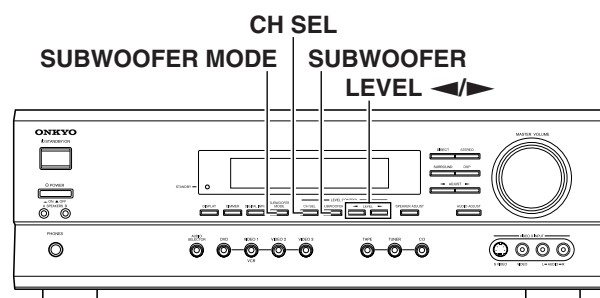
となります。

2m は表を見ると８段目の 2.1m が最も近いので、設定するサラウンドディレイ値は７となります。

1. SPEAKER ADJUSTボタンをくり返し押して「Surr Delay」表示にする

2. ADJUST ◄/►ボタンをくり返し押して、サラウンドディレイの数値を選ぶ

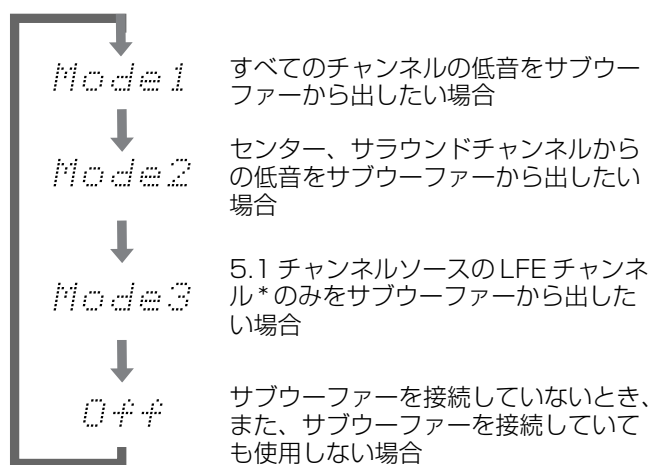
０～ 15ms の中から選びます。

スピーカーの設定をする

サブウーファーモードを選ぶ

1. SUBWOOFER MODEボタンを押す

現在の設定が３秒間表示されます。

2. 現在の設定が表示されている間にSUBWOOFER MODEボタンを繰り返し押して、サブウーファーモードを選ぶ

ボタンを押すごとにサブウーファーモードは下記のように変わります。

*LFE チャンネル： Low Frequency Effect（ロー フリークエンシー エフェクト）のことで、低域効果音を記録したチャンネルのこと

ご注意

サブウーファーモードを「Mode 2」や「Mode 3」に設定し、ステレオで再生している場合、ソースによってはサブウーファーから音が出ない場合があります（2 チャンネルのドルビーデジタルソースや DTS ソースなど）。

各スピーカーの音量バランスの調整をする

すべてのスピーカーの音が、視聴位置から同じ大きさに聞こえるように調整していきます。

1. リモコンのTESTボタンを押す

左フロントスピーカーからテストトーンが出力されるので、音量をいつも聞いている大きさにします。

2. リモコンのCH SELボタンを（くり返し）押してスピーカーを選び、リモコンのLEVEL ▲/▼または本体のLEVEL ◄/►を押して、音量を調整する

CH SEL を押すと、Left（左フロント）→ Center（センター）→ Right（右フロント）→ Surr Right（右サラウンド）→ Surr Left（左サラウンド）→ Subwoofer（サブウーファー）の順序でスピーカーからテストトーンが出力されます。

音量はレベル –12dB ～ +12dB の間で調整できます。

本機の CH SEL ボタンを押してスピーカーを選ぶこともできます。また、本機の SUBWOOFER ボタンを押すと直接サブウーファーを選ぶことができます。

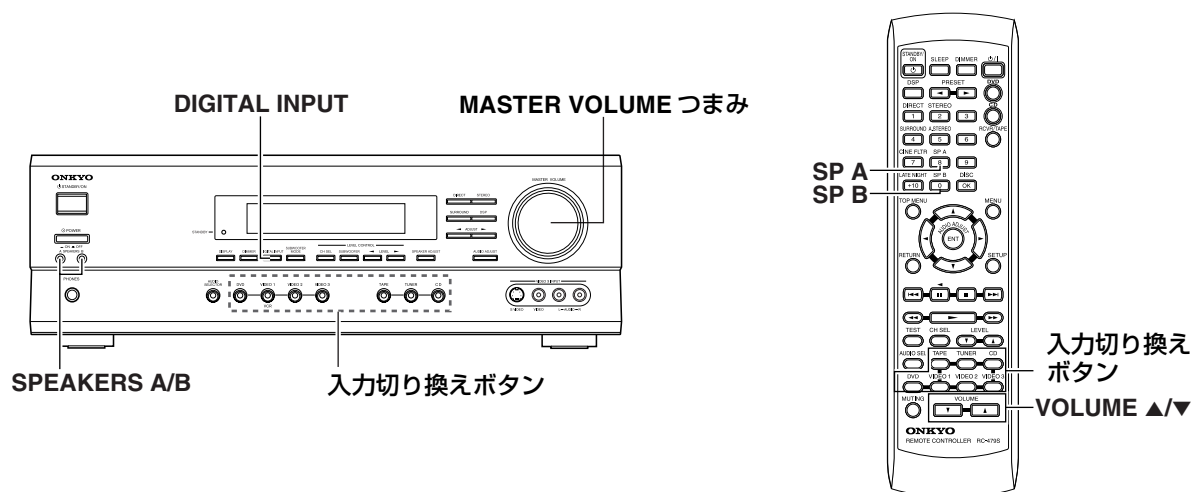
3. 調整が終わったら、リモコンのTESTボタンを押す

テストトーンが止まり、表示部は通常表示に戻ります。

お知らせ

- ミュート機能がオンのときは調整できません。
- 設定したスピーカー構成にないスピーカーからは（実際に接続していても）、テストトーンは出力されません。
- サブウーファーを接続していても、サブウーファーモードを「Off」に設定しているとテストトーンは出力されません。
- CH SEL ボタンを押さなくても、２秒たつとテストトーンは次のスピーカーに移ります。

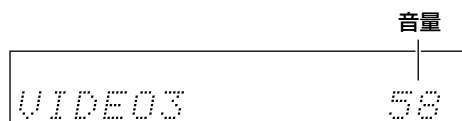
接続した外部機器を再生する

18、19 ページの「オーディオ／ビデオ機器を接続する」をご参照になり、正しく接続されていることをご確認ください。

機器を選んで演奏する

1. 入力切り替えボタンを押して以下の入力ソースを選ぶ

- DVD
- VIDEO 1
- VIDEO 2
- VIDEO 3
- TAPE
- TUNER
- CD

選ばれた入力ソースが表示部に表示されます。

音量

MD レコーダーを TAPE 端子に接続しているときは、入力表示を MD に切り換えることができます（☞29 ページ）。

2. 表示部に鳴らしたいスピーカーのインジケーターが点灯していることを確認する

点灯していない時は本機またはリモコンのSPEAKERS A（SP A）ボタンまたは SPEAKERS B（SP B）ボタンを押して鳴らしたいスピーカーシステムをオンにします。

3. 選んだ入力に接続している外部機器の再生を始める

4. 本機のMASTER VOLUMEつまみ、またはリモコンのVOLUME ▲/▼ボタンで音量を調節する

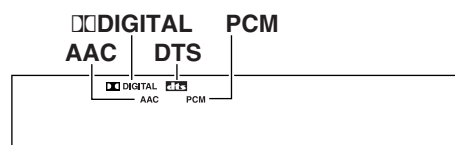
MASTER VOLUME つまみは右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。

デジタル音声の表示について

デジタル端子に接続している機器からのデジタル音声は、自動的にアナログ音声から切り換わって処理されます。

初期設定では次のようになっています。

- 入力を DVD にすると、DIGITAL（デジタル） INPUT（インプット） OPTICAL（オプティカル） 1 端子からのデジタル音声が再生されます。
- 入力を CD にすると、DIGITAL（デジタル） INPUT（インプット） COAXIAL（コアキシアル） 端子からのデジタル音声が再生されます。
- 入力を TAPE にすると、DIGITAL（デジタル） INPUT（インプット） OPTICAL（オプティカル） 2 端子からのデジタル音声が再生されます。

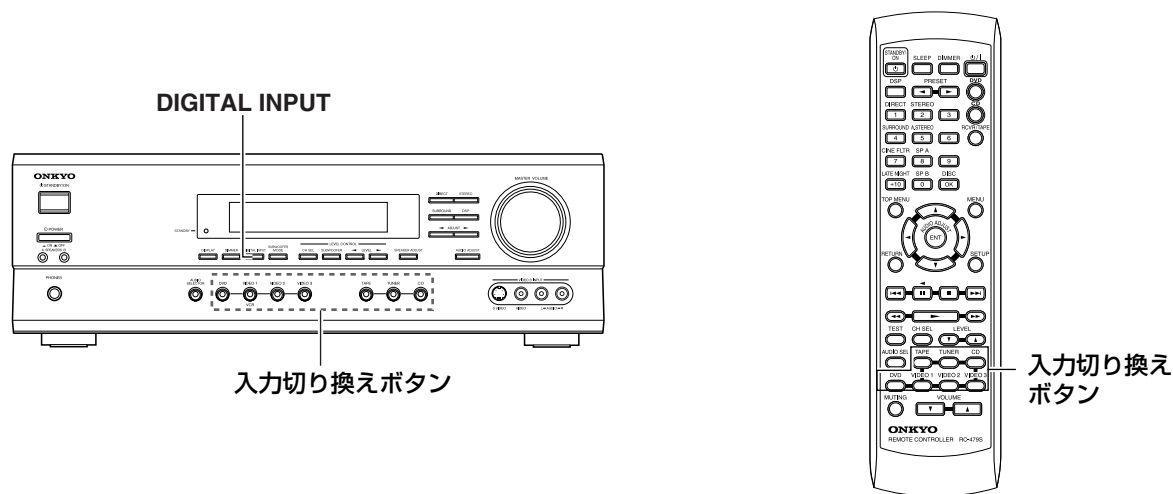
デジタル音声を認識すると、その音声方式によって、DDDIGITAL（ドルビーデジタル）、DTS、AAC、PCMのいずれかのインジケーターが表示部に点灯します。

音楽／映画を鑑賞しながら使ういろいろな機能

以下の機能が使えます。30、31 ページを参照してください。

- 音声を一時的に小さくする〈ミュート機能〉
- ヘッドホンで聞く
- 表示部の表示内容を変える
- 表示部の明るさを変える
- スリープタイマーを使う

いろいろな音声効果を楽しむ

34 ～ 36 ページを参照してください。

接続した外部機器を再生する

デジタル入力の設定や変更

DIGITAL INPUT 端子に初期設定で割り当てた以外のデジタル機器を接続する場合は、本機前面の入力切り換えボタン（入力ソース）を本機背面のDIGITAL INPUT端子（デジタル入力）のCOAX、OPT 1、OPT 2の該当するものに割り当ててください。割り当てられるのは、DVD、CD、TUNER、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、TAPEの各入力です。初期設定ではCDがCOAXIAL、DVDがOPTICAL 1、TAPEがOPTICAL 2に割り当てられており、その他は未設定です。

初期設定

入力ソース	デジタル入力
CD	COAXIAL
TUNER	––––
TAPE	OPTICAL 2
VIDEO3	––––
VIDEO2	––––
VIDEO1	––––
DVD	OPTICAL 1

–––– ： 初期設定では割り当てられていません。

たとえばDVDを本機のDIGITAL INPUT OPTICAL 2端子に接続している場合に、本機の入力信号をOPTICAL 2に設定するには

1. 入力切り換えのDVDボタンを押す

入力がDVDに切り換わり、表示部に「DVD」が表示されます。

DVD Stereo

2. DIGITAL INPUTボタンを押す

現在の設定「DVD ← OPT 1」が表示されます。

DVD ← OPT1

3. DIGITAL INPUTボタンをくり返し押して「DVD ← OPT 2」を表示させる

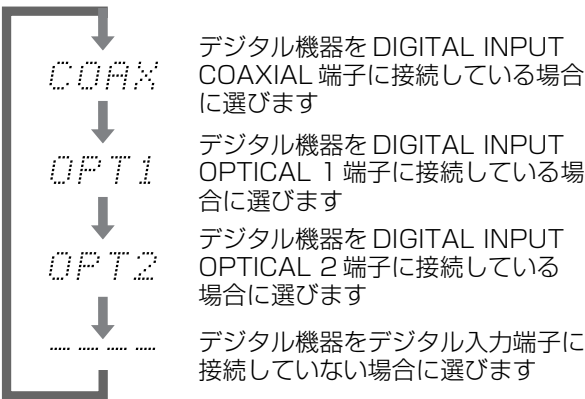
DVD ← OPT2

ボタンを押すたびに、以下のように表示が切り換わります。

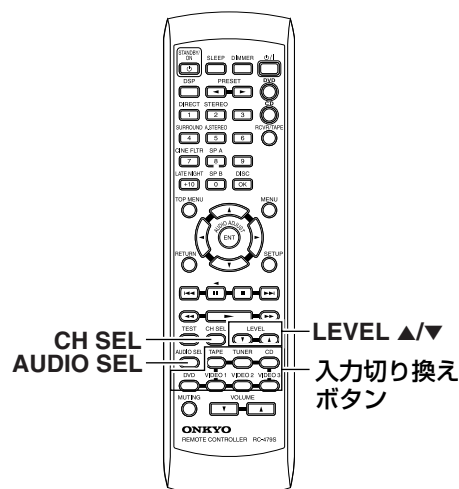
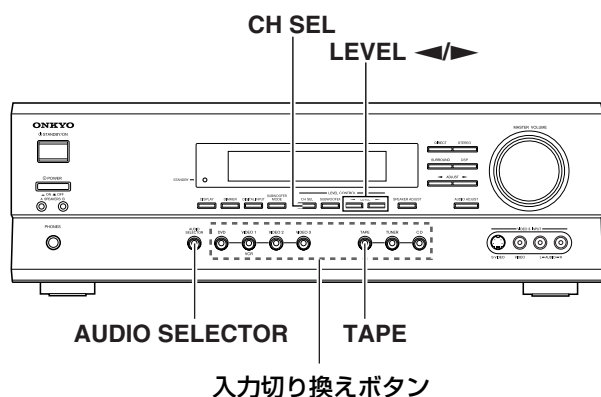
デジタル機器をDIGITAL INPUT COAXIAL端子に接続している場合に選びます

デジタル機器をDIGITAL INPUT OPTICAL 1端子に接続している場合に選びます

デジタル機器をDIGITAL INPUT OPTICAL 2端子に接続している場合に選びます

デジタル機器をデジタル入力端子に接続していない場合に選びます

「DVD ← OPT 2」表示後、約3秒後に元の表示に戻り、設定が完了します。

デジタル入力が割り当てられているときは、入力信号フォーマットの設定を確認してください（☞32ページ「入力信号フォーマットの設定」）。

接続した外部機器を再生する

マルチチャンネル入力を楽しむ

マルチチャンネル入力とは、5.1 チャンネル出力端子のある機器（DVD プレーヤー、MPEG デコーダーなど）から、左右フロント、センター、左右サラウンドの5つのチャンネル信号を各スピーカーで再生し、サブウーファーの信号は SUBWOOFER PRE OUT 端子に出力するシステムのことです（☞21 ページ）。

1. 入力ソースをDVDにする

2. AUDIO（オーディオ） SELECTOR（セレクター）ボタンを押して、Multich（マルチチャンネル）を選ぶ

3. DVD端子に接続した機器を再生する

4. 各スピーカーの音を調節する

CH SELボタンでスピーカーを選び、リモコンのLEVEL（レベル） ▲/▼ボタンまたは本機のLEVEL ◄/► ボタンで音量を調節します。

聞く位置からすべてのスピーカーの音量が同じに聞こえるように調整してください。フロント、センター、サラウンドの各スピーカーは −12dB から +12dB の範囲で調整できます。また、サブウーファーは −30dB から +12dB の範囲で調整できます。

ここで調整した各スピーカーの音量は、テストトーンで調整したスピーカーの音量（☞26ページ）とは独立していますので、反映されません。

音質調整（Bass（バス）/Treble（トレブル））を効かせた演奏を聞くには：

本体もしくはリモコンのDIRECT（ダイレクト）ボタンを押して Tone（トーン） On（オン）にする

ボタンを押すたびに On（オン）/Off（オフ） が切り換わります。

音質調整のしかたについては、33 ページをご覧ください。

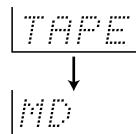
ご注意

- 入力ソースが DVD 以外のときは Multich（マルチチャンネル） を選ぶことはできません。
- Multich を選んでいるときはリスニングモードを選ぶことはできません。また、リスニングモードを使っているときに Multich を選ぶと、リスニングモードは自動的に解除されます。
- 設定したスピーカー構成（☞24 ページ）とは関係なく、各端子に入力された信号はそのまま各スピーカー端子、SUBWOOFER PRE OUT 端子に出力されます。たとえば、スピーカーセットアップを「2ch」に設定していても、すべてのスピーカーから音が出ます。

表示部の入力表示を TAPE（テープ） から MD に切り換える

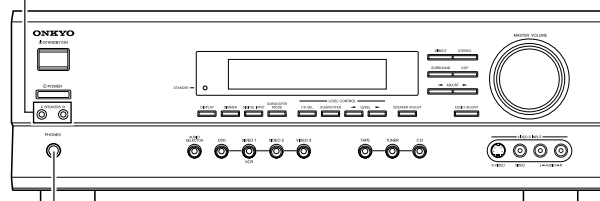
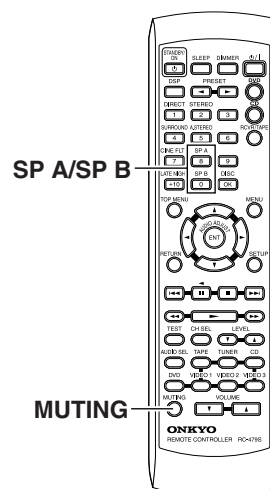
本機の TAPE 端子に MD レコーダーが接続されている場合、入力切り換えボタンで TAPE を選んだときに、MD と表示させることができます。

1. TAPEボタンを押して、入力を切り換える

2. 本体のTAPEボタンを、TAPE表示がMDに切り換わるまで（約2秒間）押し続ける

表示を元に戻すには、同じ操作をします。

オンキヨー製のカセットテープデッキの RI システム機能を有効にするためには、TAPE に戻してください。

音楽／映画鑑賞をする

すべての入力に共通したいろいろな機能

SPEAKERS A、B をオン／オフする

FRONT SPEAKERS A 端子、FRONT SPEAKERS B 端子に接続したスピーカーシステム（☞21 ページ）のオン／オフをします

本機の SPEAKERS A ボタンまたはリモコンの SP A ボタンを押すたびに、スピーカーシステム A のオン／オフが切り換わります。
本機の SPEAKERS B ボタンまたはリモコンの SP B ボタンを押すたびに、スピーカーシステム B のオン／オフが切り換わります。

お知らせ

スピーカーシステム B をオンにすると、スピーカーシステム A も強制的に 2 チャンネル（ステレオ）音声になります。（リスニングモードは「Stereo」になります。（☞36 ページ））

表示部に点灯しているスピーカーシステムが、オンになっています。

A B

音声を一時的に小さくする（リモコン操作のみ）

MUTINGボタンを押す

MUTING インジケーターが表示部で点滅し、音量がごく小さくなります。

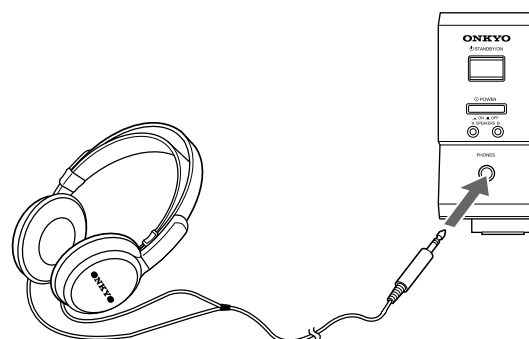
MUTING

MUTING ボタンをもう一度押すと元の音量に戻ります。

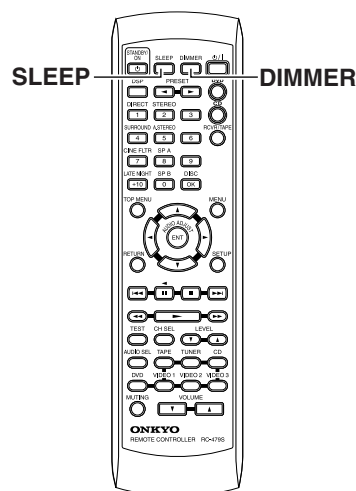
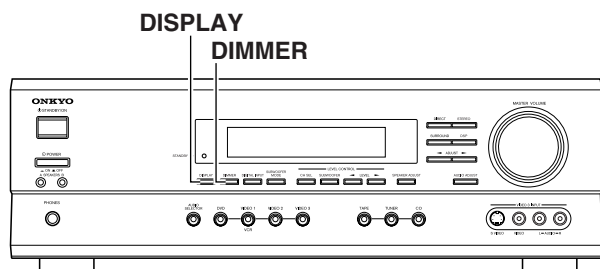
お知らせ

一度スタンバイ状態にすると、次に電源を入れたときは、ミュート機能は解除されています。

ヘッドホンで聴く

ヘッドホンを本機のPHONES端子に接続する

お知らせ

- ヘッドホンを接続すると、スピーカーからは音声は出力されません。
- 「Direct」以外のリスニングモードを選んでいるときは、自動的にステレオ音声になります。（リスニングモードが「Stereo」になります。（☞36 ページ））
  ヘッドホンを抜くと、接続前のリスニングモードに戻ります。

すべての入力に共通したいろいろな機能

表示部の表示内容を変える

DISPLAYボタンを押す

押すたびに、表示部の表示内容が以下のように切り換わります。

DISPLAYボタンを1回押すとフォーマット表示になります。この状態からもう1度押すと他方の表示になります。

* 入力信号にプログラムフォーマットがないときは表示されません。フォーマット表示状態で約3秒経過すると、もとの表示に戻ります（⋯➜）。

表示部の明るさを変える

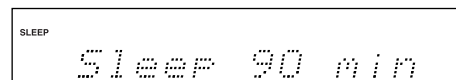
DIMMERボタンを押す

押すたびに、以下のように明るさが変わります。

スリープタイマーを使う（リモコン操作のみ）

SLEEPボタンを押す

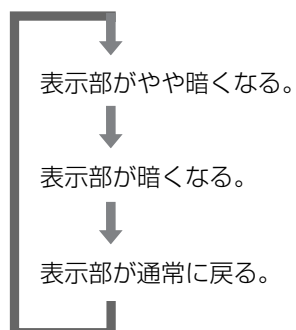
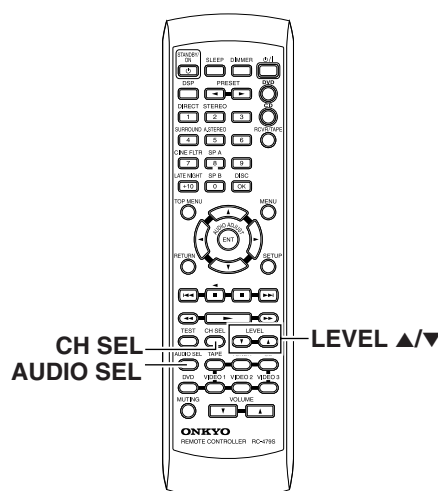
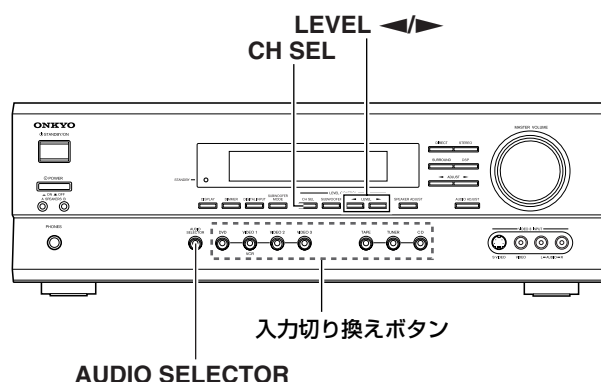
『Sleep 90min』が多目的表示部に約5秒間あらわれ、SLEEPインジケーターが表示部に点灯します。

ボタンを押すごとに10分単位で時間が短くなります。

設定した時間がたつと、本機の電源が切れ、スタンバイ状態になります。

残り時間を確認する

スリープタイマーをセットした後でSLEEPボタンを押すと、電源が切れるまでの残り時間が表示されます。

スリープタイマーを解除する

SLEEPインジケーターが消えるまで、SLEEPボタンをくり返し押します。

すべての入力に共通したいろいろな機能

各スピーカーの音量バランスを一時的に調整する

再生している音声を聞きながら、各スピーカーの音量バランスをお好みで調整することができます。

ここで調整した音量バランスは、本機の電源を切るか、主電源をオフにすると、26 ページで調整した値に戻ります。

お知らせ

ミュート機能がオンのときは調整できません。

1. 音声再生中に、CH SELボタンをくり返し押す

Left（左フロント）→Center（センター）→Right（右フロント）→Surr Right（右サラウンド）→Surr Left（左サラウンド）→Subwoofer（サブウーファー）→Off（オフ）の順でスピーカーが表示されます。

2. CH SELボタンを（くり返し）押してスピーカーを選び、リモコンのLEVEL ▲/▼ボタンまたは本機のLEVEL ◄/►ボタンを押して、音量を調整する

音量レベルは－ 12dB ～＋12dB の間で調整できます。

調整した内容を記憶させるときはリモコンの TEST ボタンを押します。その場合は、26 ページで調整した音量バランスは消えてしまいます。

お知らせ

実際に接続していても、設定したスピーカー構成にないスピーカーは、選ばれません。

入力信号フォーマットの設定

DVD、CD、VIDEO 1 ～３、TAPE、TUNER の各入力は、入力信号フォーマットの設定をすることができます。

初期設定では DVD、CD、TAPE が「Auto」、VIDEO 1 ～３、TUNER が「Analog」に設定されていますが、演奏するソフトの入力信号フォーマットに応じて切り換えることができます。

たとえば DVD の入力信号フォーマットを設定するには

1. 入力切り換えのDVDボタンを押す

入力が DVD になり、表示部に「DVD」が表示されます。

2. 本機のAUDIO SELECTORボタンまたはリモコンのAUDIO SELボタンを押す

現在の設定が３秒間表示されます。現在の設定が表示されている間にさらにボタンをくり返し押し、希望の入力信号フォーマットを選びます。

押すたびに、Auto( ) * → Multich** → Analog →…と表示が切り換わります。

* （　）の中には入力端子の名前（OPT1/OPT2/COAX）が表示されます。デジタル入力の割り当てられていない入力の時、Auto はスキップされます。

** Multich は DVD 入力の時のみ選択できます。

Auto：デジタル信号を優先して再生します。デジタル信号が入力されていない時は、アナログ信号を再生します。次のようなことが気になる場合は、デジタル信号を PCM もしくは DTS に固定することができます。

- Auto にしていて、PCM の曲間で頭切れが気になる場合 → PCM 固定にして下さい。ただし、このモードで DTS-CD を再生するとノイズが出るので注意が必要です。
- Auto で DTS-CD を再生しているときに、CD を早送り／早戻しするとノイズが出て気になる場合 → DTS 固定にして下さい。

DTS/PCM 固定にするには、1. 本機の AUDIO SELECTOR ボタン(リモコンの AUDIO SEL ボタン)で Auto を選び、2.Auto を表示している間に、ADJUST ◄/► ボタンを押します。押すたびに、Auto ↔ PCM ↔ DTS ↔ …と表示が切り換わります。

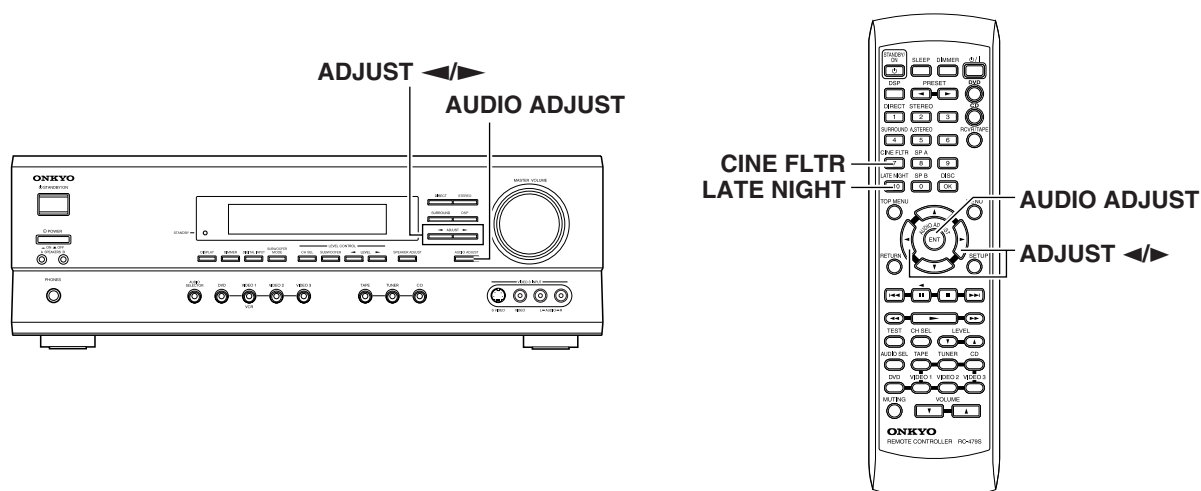
DTS/PCM 固定にすると、そのデジタル信号が入ってきた時だけ、再生します。他のフォーマットの音声は再生しません。そのときは、そのソースの表示(PCM もしくは DTS)が点滅します。

Multich：DVD 端子に接続された機器を再生します。

Analog：アナログ信号を再生します。デジタル信号が入力されても、デジタル信号は再生されません。

ご注意

入力信号フォーマットが「Multich」以外に設定されている時にデジタル入力の設定を変更した場合、デジタル入力の設定が 「－－－－」の時は「Analog」に、「OPT1」または「OPT2」、「COAX」のときは「Auto」に自動的に切り換わります。

すべての入力に共通したいろいろな機能

オーディオアジャスト機能を使う（スピーカーシステム A のみ）

オーディオアジャスト機能を使って、次の調整をすることができます。

- 音質調整（バス／トレブル）
- シネマ・フィルター　オン／オフ
- レイトナイト　オン／オフ

お知らせ

リスニングモードがダイレクトのとき、また、マルチチャンネルで Tone off（☞29 ページ）になっているときは調整できません。

1. 本機のAUDIO ADJUSTボタンを（くり返し）押して調整したい内容を選ぶ

押すたびに、Bass→Treble→LateNight（ドルビーデジタルのみ）→Cine Fltr と表示が切り換わります。

ソースやリスニングモードにより、選べる項目が異なります。

2. ADJUST ◄/►ボタンで調整または設定する

調整または設定できる内容は右欄をご覧ください。

お知らせ

シネマ・フィルターとレイトナイトはリモコンで操作することもできます。
CINE FLTR ボタンまたは LATE NIGHT ボタンを押すと、現在の設定（On または Off）が表示されます。変更したいときはもう 1 度ボタンを押してください。

BASS（低音）の調整

左右フロントチャンネルの低音の強弱を－12dB ～ +12dB の範囲で 2dB 単位で調整します。

Treble（高音）の調整

左右フロントチャンネルの高音の強弱を－12dB ～ +12dB の範囲で 2dB 単位で調整します。

Cinema Filter

映画館用にミキシングされた音声をホームシアターのスピーカーで再生すると、高音域が強調される傾向があります。シネマ・フィルターは、高音域をホームシアター用に補正します。このパラメーターは、PL Ⅱ Movie、Dolby Digital、DTS、AAC のリスニングモードの時に有効です。

Cine Fltr = On：シネマ・フィルター機能を有効にします。

Cine Fltr = Off：シネマ・フィルター機能を無効にします。

Late Night

レイトナイト機能はドルビーデジタルサラウンド音声に対してはたらきます。(☞34 ページ)

劇場用に作られた映画音声は、大きな音と小さな音の差（ダイナミックレンジ）が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞こうとすると、かなり音量をあげる必要があります。レイトナイト機能は、ダイナミックレンジを小さくし、全体の音量をあげずに小さな音も聞こえるように調整します。

夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに特に役立ちます。

LateNight = On：レイトナイト機能を有効にします。

LateNight = Off：レイトナイト機能を無効にします。

お知らせ

- レイトナイト機能は、再生しているドルビーデジタルのソフトによって効果がうすかったり、なかったりする場合があります。
- 本機をスタンバイ状態にすると、Late Night は「Off」に戻ります。

いろいろな音声効果を楽しむ

本機のサラウンド音声によってお部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わっていただけます。サラウンド音声をお楽しみいただくためにはスピーカー構成が重要な役割を果たします。（☞20ページ「スピーカーシステムAの標準的なスピーカー配置」）

操作方法については36ページをご覧ください。

サラウンドモードについて

DOLBY DIGITAL サラウンドとDTS (Digital Theater System)サラウンドとMPEG-2 AACサラウンド

フルレンジ（20Hz～20kHz）の5チャンネル（左右フロント、センター、サラウンド2チャンネル）と、低域効果音を記録したLFE（Low Frequency Effect）チャンネルを、それぞれ混ぜ合わせることなく独立して記録・再生する5.1チャンネルのデジタル・サラウンド・フォーマットです。データの転送レートなどに違いはあるものの、いずれのフォーマットでも、ご家庭でも簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドをご体験いただけます。

DOLBY DIGITAL は、DOLBY DIGITALマークのついたDVDビデオなどの再生時に楽しむことができます。

DTS は dts DIGITAL OUT マークのついたDVD、レーザーディスク、CDなどの再生時に楽しむことができます。

MPEG-2 AAC は、BSデジタル放送で採用されている音声フォーマットで、この方式のソースの再生時に楽しむことができます。音声多重放送を行っているときには、主音声＋副音声、主音声のみ、副音声のみ、の3つのパターンを選ぶことができます。

- DTSソースを再生しているときに、プレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。
- DTSソースを再生しているときには、本機のDTSインジケーターが点灯します。DTSソースの再生が終了してプレーヤーからのDTS信号が止まっても、DTSモードのままとなりDTSインジケーターがついたままとなります。これは、プレーヤー側で行う一時停止やスキップなどの操作時に発生するノイズを防止するためです。このため、DTS信号からPCM信号に急に切り換わるソースでは、PCM信号がすぐには再生されない場合があります。このようなときには、プレーヤー側でいったんソースの再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても、正しくDTS再生ができない場合があります。デジタル出力に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機では正しいDTSデータと見なすことができないからです。このような処理を行いながらDTSソースを再生すると、ノイズを発生してしまいます。

DOLBY PRO LOGIC Ⅱ サラウンド

ドルビープロロジックが「左右フロント」「センター」「モノラルのサラウンドチャンネル」の4チャンネル信号をマトリックス処理によって2チャンネルに記録し、再生時に4チャンネルに復元していたのに対し、ドルビープロロジックⅡは、フィードバックロジック回路により、ドルビーサラウンドなど2チャンネルにマトリックスエンコードされた信号をもとの状態に正確に組み替え、5.1チャンネル再生をしています。

映画に最適なMovieモードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードが選択できます。

Movieモードでは、従来モノラルで、帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、より移動感のある再生が楽しめます。また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。

DOLBY SURROUNDマークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のTV番組再生時に楽しむことができます。またMusicモードはCDなどのステレオ音楽で楽しむことができます。

サラウンドスピーカーを使用しない場合、サラウンド音声は、左右フロントチャンネルに振り分けられて出力されます。

オンキヨーのオリジナル音声効果、DSP（Digital Signal Processing）モード

アナログまたはPCMソースでは、オンキヨー独自のDSPモードを楽しむことができます。アナログソースには、レコード、AM/FM放送、カセットテープなどがあります。PCM（パルスコードモジュレーション）は一種のデジタル音声信号で、圧縮を行わずにCDやDVDに直接記録されます。

Orchestra（オーケストラ）

クラシックやオペラに適したモードです。センターチャンネルをカットするとともに、音場イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大きなホールで聴いているような、自然な響きが楽しめます。

Unplugged（アンプラグド）

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聴いているような音場イメージをつくります。

Studio-Mix（スタジオミックス）

ロック、ポピュラーミュージックなどに適した音声効果です。

パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドは、あなたをあたかもクラブハウスにいるような気分にするでしょう。

TV Logic（ティーヴィーロジック）

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適した音声効果で、局のスタジオにいるような臨場感を高めます。

すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

All Ch St（オールチャンネルステレオ）

BGMとして音楽をかける時に便利なモードです。フロントとサラウンドチャンネルの両方でステレオイメージをつくり出します。

いろいろな音声効果を楽しむ

ステレオモード、ダイレクトモードについて

Stereo（ステレオ）
すべての音声が左右のフロントスピーカーから出力されます。

Direct（ダイレクト）
音質調整やフィルター処理を行わず、ピュアな音を聞くことができます。左右フロントの音は左右フロントスピーカーでのみ処理され、サブウーファーからは出力されません。

入力音源と選択できるリスニングモード

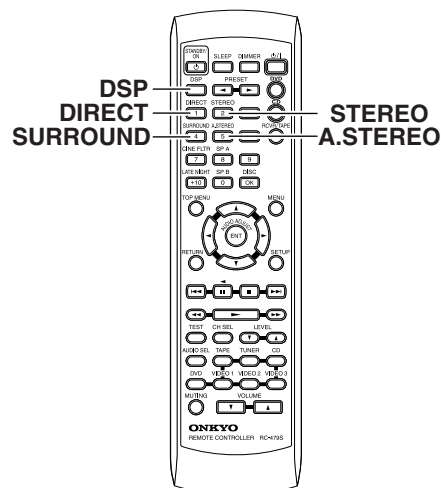
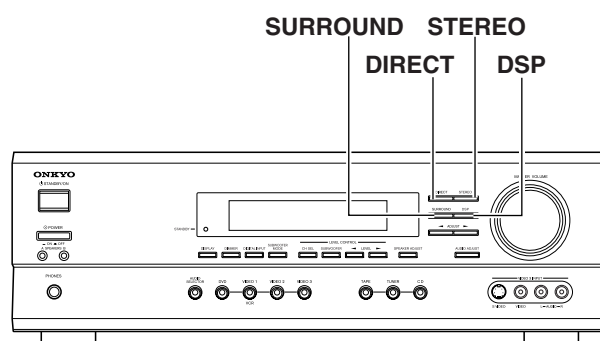
選択できるリスニングモードは、入力音源のタイプによって異なります。以下の表で確認してください。（●のリスニングモードが選択できます。）

お知らせ

- スピーカー構成を「Speaker 2ch」に設定したとき、ヘッドホンを使用しているとき、スピーカーシステムBをオンにしているときは、Stereo（PCM ／アナログソースの場合は Stereo または Direct）のみの選択となります。
- AUDIO SELECTER で「Multich」を選んでいるときはリスニングモードを選ぶことはできません。（☞32ページ）
- Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、All Ch St は、スピーカー構成を「Speaker 4ch」または「Speaker 5ch」に設定しているときのみ選択できます。
- オーケストラを選んだときは、スピーカー構成が「Speaker 5ch」のようにセンタースピーカーのある設定にしていても、センタースピーカーからは音が出ません。

入力ソースの信号	Analog	PCM*1	Dolby Digital		DTS	MPEG-2 AAC		
ソースとなるソフト ／ リスニングモード	カセットテープ、FM/AM、ビデオテープなど	音楽用CDビデオ DVDビデオ、DVDオーディオ	DVDビデオ、LD*2		音楽用CD、DVDビデオ、LD	デジタル衛星放送		
			マルチチャンネル	ステレオ		マルチチャンネル	ステレオ	音声多重放送
Direct	●	●						
Stereo	●	●	●	●	●	●	●	
PL II Movie	●	●		●			●	
PL II Music	●	●		●			●	
Dolby D			●					
DTS					●			
AAC						●		
AAC Main + Sub								●
AAC Main								●
AAC Sub								●
Orchestra	●	●						
Unplugged	●	●						
Studio-Mix	●	●						
TV Logic	●	●						
All Ch St	●	●						

*1 96kHzのサンプリングレートで記録されたPCMソースはStereo（ステレオ）またはDirect（ダイレクト）のみの再生となります。
*2 AC-3RF出力端子の付いているLDプレーヤーを接続する場合は、AC-3RFデモジュレーターを通してデジタル入力端子に接続してください。

いろいろな音声効果を楽しむ

リスニングモードを切り替える

選んでいるソースによって選択できるリスニングモードの内容は異なります。前ページの表をご覧ください。

次のボタンを押してリスニングモードを選ぶ

DIRECT：Direct（ダイレクト）モードにします。

STEREO：Stereo（ステレオ）モードにします。AAC 音声多重放送の場合は、押すたびに「主音声＋副音声」→「主音声のみ」→「副音声のみ」と切り換わります。

SURROUND：アナログや PCM、ドルビーデジタルステレオソース、AAC ステレオソースのときは PL Ⅱになります。

ドルビーデジタルソースのときは Dolby D になります。

DTS ソースのときは DTS になります。

AAC マルチチャンネルソースのときは AAC になります。

A.STEREO：All Ch St（オールチャンネルステレオ）モードにします。

DSP：本体とリモコンで選択できるリスニングモードが異なります。

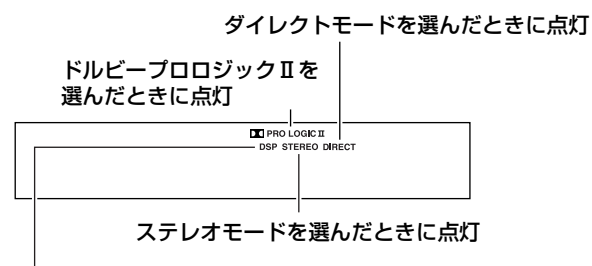
（本体の DSP ボタン）

オンキヨー独自の DSP モードを選びます。押すと、そのときに選ばれているリスニングモードを表示し、押すたびに Orchestra → Unplugged → Studio Mix → TV Logic → All Ch St →…　と順に切り換えられます。

（リモコンの DSP ボタン）

現在聞いているソースで選択できるすべてのリスニングモードを順に選ぶことができます。

このボタンは、リモコンのモードを RCVR/TAPE 以外にしたとき（38、39 ページ）にも有効です。

表示について

その他の便利な機能

- **ドルビーデジタル再生時**

  夜間など、大きな音と小さな音の幅（ダイナミックレンジ）を狭くして小音量でも聞きやすくしたいときは

  → 33 ページ「オーディオアジャスト機能を使う」の「Late Night（レイト ナイト）」の項参照

- **PL II Movie、Dolby Digital、DTS、AAC 再生時**

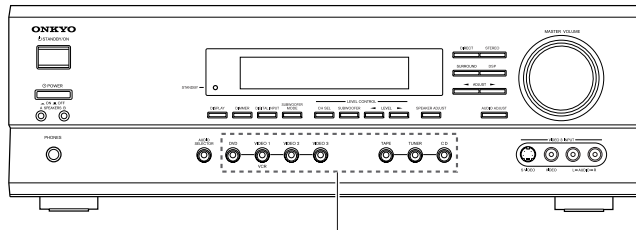
  映画などの再生時に高音が強くて気になるときは

  → 33 ページ「オーディオアジャスト機能を使う」の「Cinema Filter（シネマ フィルター）」の項参照

録音・録画する

※ あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作憲法上、権利者に無断で使用できません。

音楽や映画を再生しながら録音・録画する

VIDEO 1 OUT、TAPE OUT（録音のみ）端子に接続した機器で録音・録画します。

入力切り換えボタン

1. 入力切り換えボタンを押して、録音・録画したいソースを選ぶ

現在選択中のソースからの信号がVIDEO 1 OUT、TAPE OUTの各出力端子に出力され、録音・録画可能な状態になります。

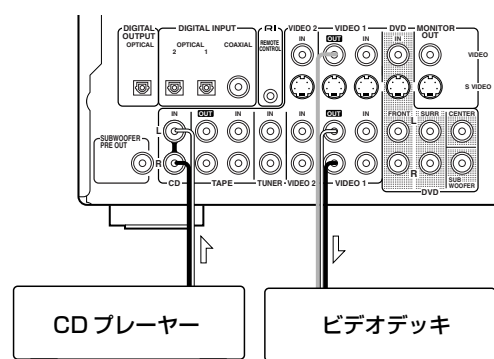
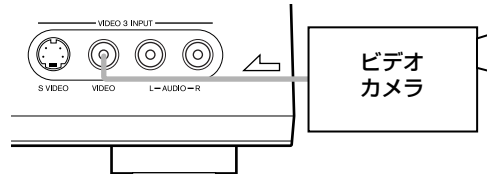
2. 録音・録画機器で、録音・録画を始める

お知らせ

- 録音・録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースからの信号が録音・録画されます。
- サラウンド効果は録音されません。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音されるときは、デジタル録音機器（MDレコーダーやCDレコーダーなど）の取扱説明書をご覧ください。
- DIGITAL INPUT 端子から入力された信号が DIGITAL OUTPUT OPTICAL 端子から出力されます。

異なるソースの音楽と映像を録音・録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオを作成できます。

以下の手順は、CD 端子に接続したCDプレーヤーの音声とVIDEO 3 INPUT 端子に接続したビデオカメラの映像をVIDEO 1 OUT 端子に接続したビデオデッキで録音・録画する例です。

1. CDプレーヤーにCDをセットし、VIDEO 3 INPUT端子に接続したビデオカメラにテープをセットする

2. VIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキにビデオテープをセットする

3. 入力切り換えボタンのVIDEO 3を押す

4. 入力切り換えボタンのCDを押す

音声出力はCDに変わりますが、映像出力は手順3で選んだVIDEO 3のまま変わりません。

5. VIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、VIDEO 3 INPUT端子に接続したビデオカメラとCDプレーヤーの再生を始める

映像はビデオカメラから録画し、音声はCDプレーヤーから録音されます。

お知らせ

- 録音・録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースからの信号が録音・録画されます。
- サラウンド効果は録音されません。

リモコンで他の機器を操作する

RI端子で接続したオンキヨー製のCDプレーヤーやカセットテープデッキ、DVDプレーヤー、チューナーを本機付属のリモコンで操作することができます。
リモコンをレシーバーのリモコン受光部に向けて操作してください。
イラスト内でグレーのボタンは本機を操作します。

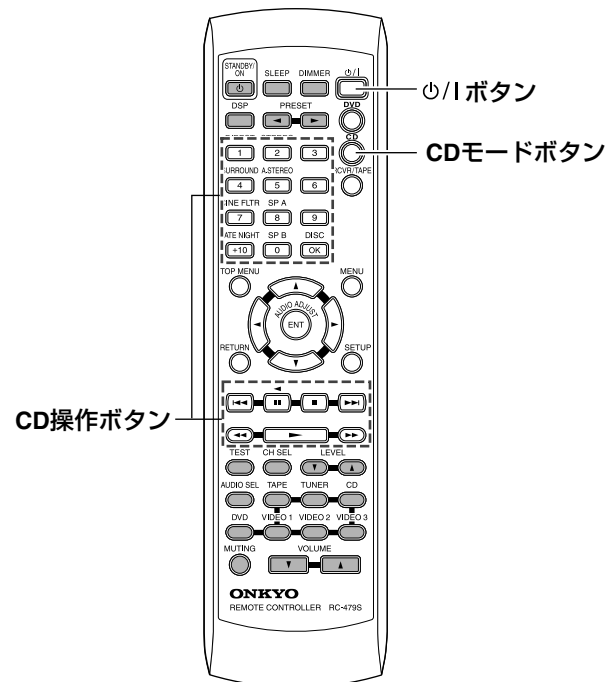
オンキヨー製CDプレーヤーを操作する

あらかじめCDプレーヤーをRI接続しておいてください
(☞ 22ページ「RI端子」)。

1. CDモードボタンを押す

2. スタンバイ/オン ボタンを押してCDプレーヤーの電源を入れる

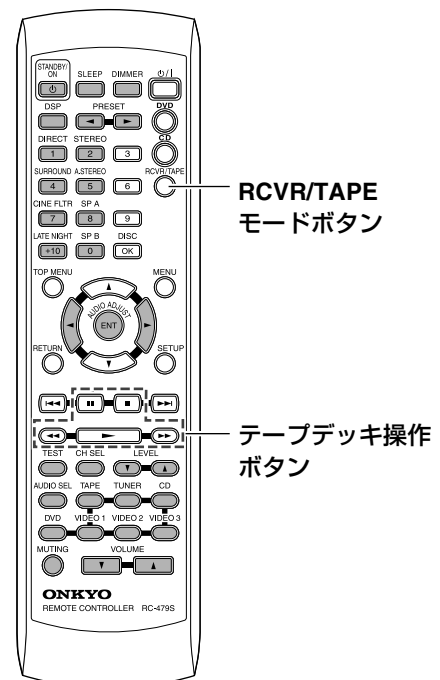
3. 各操作ボタンを押す

- ► ：演奏を始めます
- ■ ：演奏や早送り・早戻しを止めます。
- ►► ：CDを早送りします。
- ◄◄ ：CDを早戻しします。
- ◄/II ：演奏を一時停止します。
- ►►I ：次の曲の頭出しをします。
- I◄◄ ：演奏中の曲または、前の曲の頭出しをします。
- DISC ：CDチェンジャーに使える機能で、演奏するディスクを選びます。
- 1～9、+10、0： トラック番号などの数値を入力します。

オンキヨー製カセットテープデッキを操作する

あらかじめカセットテープデッキをRI接続しておいてください（☞ 22ページ「RI端子」）。

1. RCVR/TAPEモードボタンを押す

2. 各操作ボタンを押す

- ► ：A（表）面を再生します。
- ■ ：再生・録音や早送り・早戻しを止めます。
- ►► ：テープを早送りします。
- ◄◄ ：テープを早戻しします。
- ◄/II ：B（裏）面を再生します。

リモコンで他の機器を操作する

オンキヨー製 DVD プレーヤーを操作する

あらかじめ DVD プレーヤーを RI 接続しておいてください
(☞ 22 ページ「RI 端子」)。

1. DVDモードボタンを押す

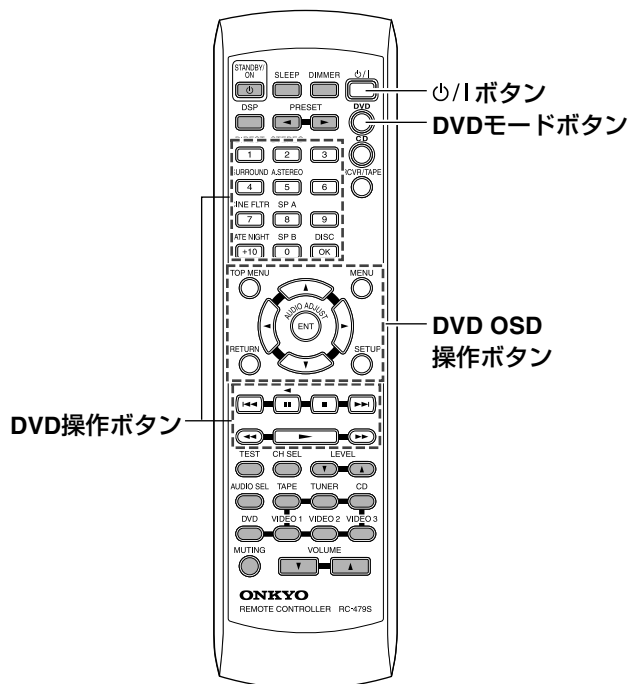
2. ⏻/I (スタンバイ/オン) ボタンを押してDVDプレーヤーの電源を入れる

3. 各操作ボタンを押す

DVD操作ボタン

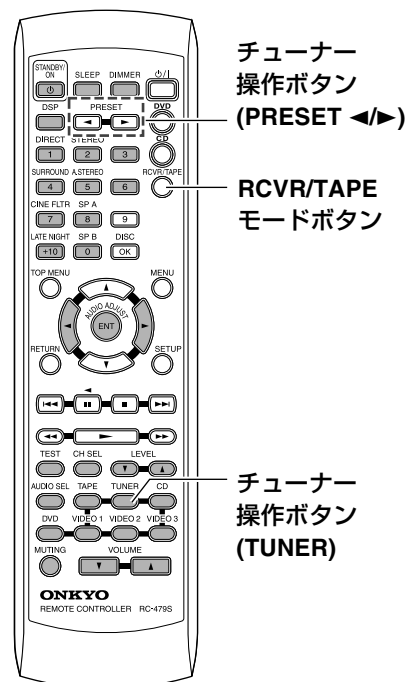
- ► ：再生を始めます。
- ■ ：再生を止めます。
- ►► ：正方向にサーチ（早送り）します。
- ◄◄ ：逆方向にサーチ（早戻し）します。
- ◄/II ：再生を一時停止 / コマ送りします。
- ►►I ：1 つ先のチャプター / トラックの先頭から再生します。
- I◄◄ ：現在のチャプター / トラックの先頭から再生します。
- DISC ：DVD チェンジャーに使える機能で、再生するディスクを選びます。
- 1～9、+10、0：チャプター番号などの数値を入力します。

DVD OSD操作ボタン

- TOP MENU ：DVD のディスクに記録されているトップメニューを表示します。
- MENU ：DVD のディスクに記録されているメニューを表示します。
- RETURN ：１つ前のメニュー画面に戻ります。
- SETUP ：設定画面を表示します。
- ▲/▼/◄/► ：画面に表示されたメニューを選択します。
- ENT ：選択内容を決定します。

オンキヨー製チューナーを操作する

あらかじめチューナーを RI 接続しておいてください
(☞ 22 ページ「RI 端子」)。

また、チューナーの周波数をあらかじめプリセットしておく必要があります。

PRESET ◄/► ：プリセット局を選択します。
TUNER ：FM と AM を切り換えます。

故障?と思ったときは

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

表や他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店、またはオンキヨーサービスステーションまでご連絡ください。その際に「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名 TX-SA500」と「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお知らせください。

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
電源	● 電源が入らない。	● 電源プラグの差し込みが不完全になっている。 ● 主電源がOFFになっている。 ● 本機内蔵のコンピューターが、外部からのノイズに影響を受けた。	● 電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。 ● 主電源をONにしてください。 ● 一度主電源を切ってから、主電源を入れ直してください。それでも回復しない場合は、電源コードを一度抜いてから、再度コンセントに接続してください。	23 23 23
	● ふいに電源が切れ、電源を入れ直してもまた切れた。	● アンプ保護回路が作動した。	● ただちに電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店もしくはオンキヨーサービスステーションにご連絡ください。	43
	● リモコンのボタンも、本体のボタンもはたらかない。	● 電源の電圧の変動や、静電気などによって動作がおかしくなった。	● 一度主電源を切ってから、主電源を入れ直してください。それでも回復しない場合は、電源コードを一度抜いてから、再度コンセントに接続してください。	23
音声と映像	● 音が出ない。	● ミューティング機能が働いている。 ● 接続に問題がある。 ● 入力切り換えが演奏したいソースになっていない。 ● ヘッドホンを接続している。 ● 入力信号フォーマットの設定がPCM固定になっている。	● リモコンのMUTINGを押して、ミューティングを解除してください。 ● 接続を点検してください。 ● 入力切り換えで演奏したいソースを選んでください。 ● 音量を下げてからヘッドホンをはずしてください。 ●設定を「Auto」に戻してください。	30 18-22 27 30 32
	● センタースピーカーから音が出ない、または、非常に小さい音しか出ない。	● スピーカーが正しく接続されていない。 ● リスニングモードが「Stereo」か「Orchestra」になっている。 ● 各スピーカーの音量バランス調整で、センタースピーカーの音量を小さくした。 ● センタースピーカーが存在しない設定（「2ch」や「4ch」）になっている。	● スピーカー接続を確認してください。 ● 「Stereo」や「Orchestra」のときはセンタースピーカーから音が出ません。 ● センタースピーカーの音量を再調整してください。 ● スピーカー構成の設定で、センタースピーカーが存在する設定（「3ch」や「5ch」）になっているか、確認してください。	21 34 26、32 24
	● ブーンという音や低音のノイズが聞こえる。	● ピンコードがノイズの影響を受けている。	● ピンコードを動かしてみて、ノイズがいちばん小さくなるところに固定してください。	18
	● 耳障りな雑音や引っ掻き音が聞こえる。または、高音域が明瞭に聞こえない。	● 高音域が強すぎる。	● オーディオアジャスト機能で高音域を調節してください。	33
	● サブウーファーの音が小さい、または音が出ない。	● サブウーファーの設定が「Off」になっている。 ● サブウーファーモードが不適切。	● サブウーファーモードの設定を確認してください。 ● サブウーファーモードの設定を確認してください。	26 26
	● 他機で再生した映像がテレビ画面にあらわれない。	● テレビが本機を接続した入力に設定されていない。 ● ビデオ用ピンコードが正しく接続されていない。 ● Sビデオ接続のみをしている。	● テレビの入力を、本機を接続した入力端子に対応した入力に切り換えてください。 ● 本機とテレビの接続を確認してください。 ● ビデオ用ピンコードによる接続もおこなってください。また、テレビの映像切り換えも確認してください。	– 18 18、19
	● 再生中の音声が聞こえない。	● 別の入力が選ばれている。	● 再生している機器の入力を選んでください。	27

故障?と思ったときは

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
リモコン	● 本体のボタンははたらくが、リモコンのボタンがはたらかない。	● リモコンが、操作しようとしている機能モードになっていない。	● リモコンを操作する前に、操作したい機器のモードボタンを押してください。	38、39
		● リモコンに乾電池が入っていないか、電池が切れている。	● 新しい乾電池をリモコンに入れてください。	9
		● リモコンの送信部が本体の受光部に向けられていない。	● リモコンの送信部を本体の受光部に向けて操作してください。	9
		● リモコンが本体から遠すぎる。	● リモコンは、本体から5m以内のところで操作してください。	9
その他	● Late Nightがはたらかない。	● 再生ソースがドルビーデジタルでない。	● DDDIGITAL表示が点灯していることを確認してください。	27
	● マルチチャンネル音声が出力されない。	● 入力信号フォーマットの設定が「Multich」になっていない。	● 入力信号フォーマットの設定を確認してください。	32
		● 入力ソースのオーディオ出力がDVD端子に接続されていない。	● 接続を確認してください。	19
	● スピーカーから音声は聞こえるが、録音できない。	● DTSサラウンド音声を録音しようとしている。	● DTSサラウンド音声は録音できません。	35
		● デジタル入力（DIGITAL INPUT）に接続した機器の音声を録音しようとしている。	● アナログ接続をしてください。	18、19

誤動作するときは

- 本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、静電気などを拾って誤動作するときがあります。このようなときは、電源コードを壁のコンセントから一度抜き、5 秒以上たってから接続しなおしてください。
- サラウンドモードなどの設定をすべて初期（工場出荷時の設定内容）化したいときは、電源を入れた状態で **VIDEO 1 ボタン**を押したまま **STANDBY/ON ボタン**を押してください。表示部に『Clear』が表示され、スタンバイ状態になります。

製品の故障により、正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については、保証対象にはなりませんので大事な録音・録画をするときには、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

仕様

■ アンプ（音声）部

定格出力
全てのチャンネル（2チャンネル駆動時）
115W　6Ω　1kHz（EIAJ）
80W　6Ω　1kHz、全高調波歪率0.1%
ダイナミックパワー（左右フロントチャンネルのみ駆動時）
3Ω　160W × 2
4Ω　125W × 2
8Ω　85W × 2
全高調波ひずみ率：
定格出力時で0.08%
1W出力時で0.08%
混変調ひずみ率：
定格出力時で0.08%
1W出力時で0.08%
ダンピングファクター：8Ω負荷時で60
入力感度/インピーダンス
DIGITAL INPUT（COAXIAL）：
0.5Vp-p/75Ω
DIGITAL INPUT (OPTICAL 1、2)：
0.5Vp-p/75Ω
LINE（CD、VIDEO 1、2、3、TAPE、TUNER）：
200mV/50kΩ
DVD（FRONT L/R、CENTER、SURR L/R）：
200mV/50kΩ
DVD（SUBWOOFER）：
36mV/50kΩ
コンポジット（DVD、VIDEO 1、2、3）：
1Vp-p/75Ω
S-VIDEO（DVD、VIDEO 1、2、3）
（Y信号）：1Vp-p/75Ω
（C信号）：0.28Vp-p/75Ω
定格出力/インピーダンス
REC OUT（VIDEO 1、TAPE）：
200mV/470Ω
SUBWOOFER PRE OUT：
1V/470Ω
コンポジット（MONITOR OUT、VIDEO 1）：
1Vp-p/75Ω
S-VIDEO（MONITOR OUT、VIDEO 1）
（Y信号）：1Vp-p/75Ω
（C信号）：0.28Vp-p/75Ω
周波数特性：
10〜100kHz ＋1／－3dB（ダイレクトモード）
トーンコントロール
BASS：±12dB（50Hz時）
TREBLE：±12dB（20kHz時）
SN比：100dB（IHF）（ダイレクトモード）
ミュート：－50dB

■　一般仕様

使用電源：AC 100V、50/60Hz
消費電力（電気用品安全法技術基準）：183W
待機電力：19W
外形寸法：435（幅）× 150（高さ）× 376（奥行き）mm
質量：9.6kg

■　リモコン RC-479S

方式：赤外線
信号到達距離：約5m
使用電池：単3型（1.5V）乾電池2個

ONKYO

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お客様ご相談窓口	カスタマーセンター　受付　9:30～17:30（土日祝、弊社休日除く） ■カタログのご請求、製品についてのご相談 ＊e－mail：ホームシアター/オーディオ製品　→　customer@onkyo.co.jp マルチメディア製品　→　mmcadmin@onkyo.co.jp ＊TEL.：ナビダイヤル 0570－01－8111（全国どこからでも市内料金で通話いただけます） または 072－831－8111（携帯電話、PHSから）へどうぞ。 ＊FAX.：072－831－8124 ＊はがき：〒572－8540 大阪府寝屋川市日新町２－１ オンキヨー株式会社　カスタマーセンター行

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ　→　http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ　→　http://www.e-onkyo.com

修理窓口

修理のご依頼は、取扱説明書の「困ったときは」、「故障かな？と思ったときは」または「故障？と思ったときは」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障で、お困りの場合は、下記へご相談ください。

北海道地区
札幌サービスステーション
TEL 011-747-6612　FAX 011-747-6619
〒001-0028 札幌市北区北２８条西5-1-28　トーシン北28条ビル

青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島地区
仙台サービスステーション
TEL 022-297-0571　FAX 022-257-7330
〒984-0051 仙台市若林区新寺4-9-5　第二丸昌ビル1F

栃木地区
宇都宮サービスステーション
TEL 028-634-4307　FAX 028-634-4308
〒320-0831　栃木県宇都宮市新町2-7-7

群馬・埼玉・新潟地区
大宮サービスステーション
TEL 048-651-8612　FAX 048-651-9137
〒330-0034　埼玉県さいたま市土呂町2-29-2　高安ビル１F

千葉・茨城地区
千葉サービスステーション
TEL 043-296-3915　FAX 043-296-3912
〒262-0033 千葉県千葉市花見川区幕張本郷５丁目２番11号

東京(23区)地区
東京サービスセンター
TEL 03-3861-8121　FAX 03-3861-8124
〒111-0054　東京都台東区鳥越1-2-3　ハマスエビル

東京(23区を除く)・山梨・長野地区
八王子サービスステーション
TEL 0426-32-8030　FAX 0426-36-9312
〒192-0914　東京都八王子市片倉町358番地

神奈川地区
横浜サービスステーション
TEL 045-322-9342　FAX 045-312-6603
〒220-0072　横浜市西区浅間町1-13　共益ビル5F

岐阜・静岡・愛知・三重地区
名古屋サービスステーション
TEL 052-772-1229　FAX 052-772-1331
〒465-0013　名古屋市名東区社口１丁目1001番

富山・石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山地区
大阪サービスセンター
TEL 06-6576-7620　FAX 06-6576-7604
〒552-0013　大阪市港区福崎３丁目1番１４８号

鳥取・島根・岡山・広島・山口(下関を除く)地区
広島サービスステーション
TEL 082-262-3315　FAX 082-262-6571
〒732-0057　広島市東区二葉の里2-8-28

徳島・香川・愛媛・高知地区
高松サービスステーション
TEL 087-868-5662　FAX 087-868-5672
〒760-0079　高松市松縄町44-8　西原ビル1F

山口(下関)・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄地区
福岡サービスステーション
TEL 092-418-1357　FAX 092-418-1358
〒812-0006　福岡市博多区上牟田3-8-19　みなみビル202

オンキヨーサービス認定店（オンキヨー製品の修理を委託しているサービス認定店です。）

静岡サービス認定店
TEL 0543-46-6502　FAX 0543-46-7091
〒424-0063 静岡県清水市能島171-15

北陸サービス認定店
TEL 0776-27-1868　FAX 0776-27-1768
〒910-0001 福井県福井市大願寺3-5-9

岡山サービス認定店
TEL 086-274-5840　FAX 086-274-5840
〒703-8271 岡山県岡山市円山13

熊本サービス認定店
TEL 096-364-1475　FAX 096-364-1475
〒862-0970 熊本県熊本市渡鹿7-15-18

沖縄サービス認定店
TEL 098-876-9195　FAX 098-876-9195
〒901-2104 沖縄県浦添市当山558番地の8
キャッスルサイド浦添102号

2002年6月現在　　お客様相談窓口・修理窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

SN 29358031G-2

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　　　(　　)
メモ：

■ 修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名（TX-SA500）」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。
保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

ONKYO®
オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくはオンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。
●東京サービスセンター　☎ 03(3861)8121　●大阪サービスセンター　☎ 06(6576)7620

SN29343291B
W0207-3